

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

2004/2005
日本リーグ開幕



㈶日本ハンドボール協会 常務理事 川上 憲太
(日本ハンドボールリーグ委員会委員長)

第29回日本ハンドボールリーグが、いよいよ9月18日に開幕、来年3月20日のプレーオフ決勝に向かって熱戦が展開。男子1部7チーム、女子1部5チーム、男子2部5チームそれぞれ3回戦総当たりにてレギュラーシーズンが全国各地で繰り広げられます。ファンの皆様、関係者の皆様、そしてマスコミ関係の皆様、どうぞ会場に足を運んでのご声援、ご協力よろしくお願い致します。

北京オリンピック出場へのスタートの年

日本リーグはまさに、日本のトップチームによる最高峰のゲームが展開されるわけです。この激しい切磋琢磨の中からナショナル代表の殆どが選出されます。アテネオリンピック出場を果たせなかった日本の悲願、北京へのスタートの原点が、このリーグの中に集約されています。関係者は一致団結し、厳しい目でスタッフ・選手の育成、選出に専心し、選手諸君には必ず自分たちが北京出場を果たす心意気で臨んでいただきたいと思います。

男子プレーオフは4チーム出場

第29回のプレーオフは、ここ数年の3チームによる戦いを更にヒートアップさせるため、レギュラーシーズン上位4チームによるプレーオフを行います。これにより、各チームのモチベーションアップとトップゲームの内容充実に役立て、ファンの皆様にも長期間にわたるレギュラーシーズンとは違った醍醐味を味わっていただきたいと思います。

今年も厳しい試合日程

今シーズンは、男子ナショナルが3大会ぶりに世界選手権大会（チュニジア）出場権獲得、大会出場のため男子1部レギュラーシーズンの日程調整が行われました。当然の事ながら、国際競技力強化は日本リーグの主旨の一つでもあり、厳しい日程になりますがファンの皆様始め、全員でご理解の上、ご協力お願い致します。

今年も「熱い日本リーグ」に皆様のご声援をお願い致します。

本号 P.20,21 に関連記事、前半日程が掲載されています。

第10回アジア女子ハンドボール選手権大会

兼2005年女子世界選手権アジア予選兼第9回ヒロシマ国際ハンドボール大会

29年ぶりのアジアNo.1！ 女子初めてのアジアタイトル獲得！

日本選手団名簿

団　長	水上　一	(財)日本ハンドボール協会
監　督	西窪　勝広	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	東江　正作	(財)日本ハンドボール協会
ドクター	坂口　満	熊本整形外科病院
トレーナー	皆川　直哉	オレンジカウンティー

	氏　名	所　属	出身大学	出身高校	出身地
GK	飛田　季実子	ソニーセミコンダクタ九州	—	大阪福島女子高	大阪府
GK	浅井　友可里	広島メイプルレッズ	—	四天王寺高	大阪府
GK	藤間　かおり	オムロン	—	大分鶴崎高	大分県
CP	田中　美音子	ソニーセミコンダクタ九州	—	四天王寺高	大阪府
CP	青戸　あかね	広島メイプルレッズ	東女体大	山陽女高	広島県
CP	中村　尚美	北國銀行	武庫川女大	福井商高	福井県
CP	大石　真代	オムロン	武庫川女大	暁高	愛知県
CP	佐久川　ひとみ	オムロン	—	浦添高	沖縄県
CP	坂元　智子	オムロン	—	夙川学院高	兵庫県
CP	水野　恵子	オムロン	—	熊本国府高	熊本県
CP	安心院　祐子	オムロン	—	大分鶴崎高	大分県
CP	東濱　裕子	オムロン	—	陽明高	沖縄県
CP	吉田　祥子	オムロン	東女体大	宣真高	北海道
CP	早船　愛子	日本ハンドボール協会	筑波大	氷見高	富山県
CP	谷口　尚代	筑波大学	—	福井商高	福井県
CP	樋口　真央	筑波大学	—	桜花学園高	愛知県

平成16年7月23日(金)から25日(日)まで、広島市東区スポーツセンターを会場に標記大会が開催された。参加国は韓国、中国、チャイニーズタイペイに日本を含む4チーム。アジアの世界選手権出場枠は3、韓国が前の世界選手権で3位入賞、出場権を獲得しているため今回参加した4チームは順位に関係なく世界選手権への出場権が得られることとなる。このような状況下、オリンピックを間近に控えた中国、韓国はナショナルチームがヨーロッパ遠征をしており、ジュニアクラスの選手団を送り込んできた。しかしながら、ホスト国としての日本の取り組みには大きな意味があった。それは、北京オリンピックへ向けての第一歩、相手チームがどこであれ勝つこと、そして国際大会を選手は経験すること、協会としては大会を盛り上げ成功させることであった。

大会は、日本の3勝で優勝。実に29年ぶりの対韓国戦勝利と初のアジアタイトル獲得で幕を閉じた。北京に向けて、ベテランと若手がよくマッチングした新ナショナルチームとして幸先の良いスタートであった。

大会結果

◆第1日（7月23日(金)）

韓　国（KOR）（1勝） 34（17-16, 17-11）27 チャイニーズタイペイ（TPE）（1敗）

日　本（JPN）（1勝） 30（14- 9, 16-14）23 中　国（CHN）（1敗）

◆第2日（7月24日(土)）

日　本（JPN）（2勝） 35（17- 7, 18-11）18 チャイニーズタイペイ（TPE）（2敗）

中　国（CHN）（1勝1敗） 26（17-14, 9-11）25 韓　国（KOR）（1勝1敗）

◆第3日（7月25日(日)）

中　国（CHN）（2勝1敗） 42（23-14, 19-14）28 チャイニーズタイペイ（TPE）（3敗）

日　本（JPN）（3勝） 31（15-13, 16-10）23 韓　国（KOR）（1勝2敗）

<表　彰>

○最優秀選手
田中美音子（日本・No.5）

○優秀選手
SHEN PING（中国・No.4）
SONG HAI-RIM（韓国・No.6）
SHEN FANG-NI（チャイニーズタイペイ・No.9）

○最優秀監督
西窪　勝広（日本）

地元協会の声

ヒロシマ国際ハンドボール大会を終えて



広島ハンドボール協会理事長
山本　一

1994年にヒロシマで開催されたアジア競技大会のメモリアル大会として定着しているヒロシマ国際大会ですが、昨年SARS禍により大会が中止となったため、今回は第9回目の開催となりました。同時に来年12月にロシアで行なわれる女子世界選手権のアジア予選を兼ねた、第10回アジア女子ハンドボール選手権をメインタイトルとした大会を開催しました。

毎年のように行なわれている広島での国際大会ですが、今回はAHFの主催ということもあり、参加国は、日本、中国、韓国、チャイニーズタイペイと例年どおり4チームの参加でした。中東諸国からAHF役員5名レフェリー4名が派遣され例年に比べ賑やかな大会となりました。

公式会議等を含む大会スケジュールについては、事前に日本協会を通じてAHFと綿密な連絡をとり、万全な体制を取っていたつもりでしたが、大会直前にAHFより来日が遅れるので代表者会議と審判会議を翌日に延ばせというFAXが入ったりで、相変わらずのAHF事務局のわがままぶりがあったりしましたが、これも折り込み済みの事として対応できました。

協議の運営については、特に問題無く進行できたと思います。

世の中、アテネオリンピックに関する話題でいっぱいの中、ひとり蚊帳の外という感じのハンドボール界ですが、北京オリンピックを目指す日本にとって絶対負けてはならない大会だけに我々の出来る事は何かと考えた末、観客を多く集める事と位置づけました。そこで小中学生対象のハンドボール教室、ドッヂボール教室等を行なうことにより、集客を計画しましたが、何とかかっこうがついたかなと思っています。また、地元ケーブルテレビ局中国ケーブルテレビジョンの協力で日本戦は全て大会後となりますがオンエアしていただくことにもなり、ハンドボールの醍醐味を一般の方にも味わっていただけたと思います。



樋口真央選手

大会開催にあたり、主催の中国新聞社、後援いただいた外務省、文部科学省を始めとする各団体、及び特別協賛の㈱モルテンや協賛各社に多大なご支援を賜わり、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

監督の声

“アジアNo.1を取り戻す”を合言葉に北京へスタート



日本代表監督　西窪 勝広

短期目標としてのアジア選手権

「アジアNo.1を取り戻す」を合言葉にアテネオリンピック予選（平成15年9月：神戸）のメンバーから8名の選手を入替、短・中・長期と勝つ為の計画を立案し、スタートしました。そして、短期目標が今回のアジア選手権でした。

4月の選考合宿に始まり、5月の強化合宿ではまず戦える体づくりを中心に栄養面を考慮、筋力アップに強め、6月は高校生男子と大型プレーヤーを想定した実践面中心。7月には16名のメンバーに絞込み、対戦国の分析に基づいた戦術・戦略の強化を実施し、本大会に臨みました。この間大学生の授業とのかねあいもあり、時間の許す範囲で常に全日本のドアをオープンにし、大学生の合宿を受け入れ、日々新しい風を受けながら強化に努める事ができ、チーム内に競争心が芽生え、相乗効果が表れたのもチーム向上に大きくつながりました。

対戦国よりもまずこの3ヶ月間

アジア選手権大会では対戦国よりもまずこの3ヶ月間、我々が取り組んできた合宿内容がどれだけ表現できるかが課題でした。9mラインを中心とした60分間休む事なく、機動性を生かしたDFで、1次、2次、3次速攻に結び付け、セット攻撃に移行する。そして、失点後のクイックスタート、7人攻撃とあらゆる局面を想定した練習内容をこの3戦に全て表現するだけでした。この3ヶ月、ベテランと若手を田中美音子主将がよくまとめあげてくれ、練習後のミーティングも自分達で課題解決、日々の強化が図れた事に感謝しています。

相手国がどのような状況であれ、29年ぶりに韓国に勝利し、アジアNo.1から遠ざかっていた歴史に優勝という二文字が残せた事は、これから戦う若手選手にとって大きな自信となった事は間違いありません。長い合宿の中で、厳しい練習を乗り切ることがどのような成果に結びつくか、選手個々も確信したと思います。

次は世界選手権決勝ラウンド進出

世界選手権大会では予選ラウンドを勝ち抜き、まだ全日本代表が実現していない決勝ラウンド進出にチャレンジして参ります。最終目標は北京オリンピック出場です。

広島のアジア選手権まで多くの関係各位のご協力により素晴らしい環境で強化に努める事ができました。特に分析班に関しては、大会期間中、夜遅くまで対戦国の分析に取り組んでもらい、私達に勇気をもって戦える情報を流してもらった事に深く感謝しています。

北京に向け、まだ課題修正する事が山積していますが、皆様のお力をお借りして強化に努めて参ります。関係各位に心から感謝し、アジア選手権のご報告といたします。

戦評



全日本女子チームコーチ
東江 正作

7月23日(金) 対中国戦

日本は立ち上がり中村の思いっきりの良いシュートで先制し、その後4連取でスタートダッシュに成功。キャプテン田中の冷静なリードからコンビプレー、個人技などで試合の主導権を握り、全員が前を狙う姿勢を示し着実に加点する。

守備陣も大石、坂元のセンターライン中心に9mをベースとし平均身長で9.6㎝上回る相手にプレッシャーをかけ自由にプレーさせず、また青戸の体を張ったDFなど全員での守備の意識が高く、最後はＧＫ飛田が強烈なシュートをことごとくセーブ、常にゲームを支配し、後半は新鋭樋口を投入し思いっきりの良いプレーで中国を引き離す。

大事な初戦ということで、プレッシャーからかイージーなシュートミスはあったが、勝つことが絶対条件の中で一度も追いつかれることなく勝利できたことは今後の戦いに勇気が持てる試合となった。

7月24日(土) 対チャイニーズタイペイ戦

ジュニア中心の若いチームで、ゆったりしたボール回しから個人技での攻撃が印象的なチャイニーズタイペイに対し日本は、前日と同様に相手の攻撃に対しプレッシャーをかけGK飛田の巧守もあり6連取スタートで完全に拭合の主導権を握る。

全ての面において勝る日本は、後半樋口、谷口、吉田ら若手がコートに立ち、各々の持ち味を発揮した。

7月25日(日) 対韓国戦

宿敵韓国との最終戦に前日までと同様の戦い方が出来るか、一抹の不安を覚えながらの一戦となった。 案の定、シュートミスが重なり、警戒していた相手センターのミドル、カットインを止めきれず前半は一進一退の攻防が続き15—13で折り返す。

後半に入り相手センターへ対しより高めにプレッシャーをかけ、極端な5：1ＤＦで対応。結果的にこれが功を奏しDFから速攻へ繋ぎ一気に抜け出す。

佐久川は速攻、サイドで12得点と大活躍。そして、何度もピンチを防いだGK飛田の神懸かり的なキーピング、キャプテン田中の好リード、中村、早船両バックプレーヤーの安定した働き、青戸の攻守にわたる献身的なプレー、DFの要大石、坂元、初代表で左サイドを攻めた水野らの働きで29年ぶりの対韓国勝利となった。

ナショナルコーチとなって初めての国際大会で優勝することが出来て、皆さんに感謝いたします。これからも、更に精進しチーム強化のために努力していきたいと思います。

選手の声

この優勝を自信に変えて



キャプテン **田中美音子**
(ソニーセミコンダクタ九州)

今回のアジア選手権は昨年のアテネ予選での結果、世界選手権での評価、いろいろな意味で大切な大会だったと思います。前回と半分以上の選手が違う中、5月から新たなスタートを切りました。メンバーが変わっても前回までの過程で評価される事は同じ、いろんな意味で難しかったです。

今年、チームとして「変わる＆変える」をテーマに、見えない壁、壊さないといけない壁、乗り越えないといけない壁いろんな戦いをチームでしてきました。そして大会前には4チーム共に出場決定、対戦する相手がベストメンバーではなく勝って当たり前という状況に変わりました。

経験の少ない選手が多くても、アテネ予選経験者がいる限りその状況下は変わらないと思っていました。だから優勝できて本当に良かったです。嬉しさ反面、安堵の気持ちでいっぱいです。自分達の力で勝ち、世界選手権の切符を手にし、アジアNo.1になったことは事実。相手がどうであれ自分達の力で勝ち得たものです。

この優勝がこれからの若い選手に自信を持たせ、日本としての自信に繋がって欲しいです。強い日本を取り戻す為に…。ハンドボールがメジャーになる為に…。

最後になりましたが、関係者の皆さん、応援してくださった皆さんご支援・ご声援ありがとうございました。そして分析の皆さん、毎日夜遅くまでどうもありがとうございました。これからも皆さんのご支援・ご声援の程よろしくお願いします。



GK飛田季実子選手



吉田祥子選手

選手の声

今のモチベーションを保ち、更なる飛躍を



樋口 真央（筑波大学）

７月末のアジア選手権にナショナルチームの一人として参加させていただいて、本当にいい経験となりました。今まで中学から高校、高校から大学、自分の場がすすんでいくたびにレベルの違いは感じてきましたが、今回ほどワクワクするような刺激をうけたことはありません。観客席から観ていた選手の中に自分が入って何ができるか。もちろん、韓国、中国、チャイニーズタイペイとどのように戦うかということがまず一番なのですが、私の場合、自分自身の中での戦いだった気がします。同じ身長ほどのフローターの先輩方を前に、勉強の毎日でした。また、ポジションが違ってもチームを構成していく上でのそれぞれの役割をきちんと果たしておられて、その一つ一つが今回の初優勝を導いたのだと思います。私は、この合宿や大会では、観ているだけでは分からなかったナショナルの強さ・速さ・巧さを全身で感じ、今後の自分の目標がより具体的なものになりました。これから、自分のチームに戻って、この経験で得た今のモチベーションを保ち、さらに向上していきたいです。このような機会を与えてくださった皆様、スタッフやチームの方々にとても感謝しています。

PHOTO GALLERY



史上初のアジアタイトルを取ったメンバー



右より渡邊会長、多田公照氏（(財)広島県体育協会会長）、亀井郁夫氏（参議院議員・広島県ハンドボール協会顧問）山下副会長



AHF 役員と渡邊会長（中央）



ハーフタイムショー
自転車ショーの塩原正長さん



地元広島の小学生を集めてのドッジボール教室



ドーピングコントロールのメンバーの皆さん

第8回アジア女子ジュニア選手権
（兼 2005年世界女子ジュニア選手権アジア予選）

みんなで勝ち取った 世界選手権出場権

先月号既報の通り、女子ジュニアチームは、過去最高のアジア２位で世界選手権大会の出場権を獲得しました。今大会では大西武三日本協会専務理事が団長として初めて海外での国際大会に参加しました。また、高校生が半分を占める若いチームで、しかも体格的にはるかに勝る中国、カザフスタンを破ったことは特筆に値します。今号におきましては、団長、監督のコメントと共に、第７回大会に引き続き参加のGK下地ゆいのさん、CPで、チーム得点王の高橋恵さんの声をお届けします。

団長のコメント

アジア女子ジュニア選手権大会に参加して

日本選手団団長　大西 武三（財日本ハンドボール協会専務理事）



今回、団長として女子ジュニアアジア選手権大会に参加し、いくつか感じたことを報告します。

▶世界選手権大会の切符を獲得

日本のハンドボールが発展するためには、常にナショナルチームが世界と接点をもち、挑戦し続けることである。アテネへの切符を逃した今、来年度の世界選手権大会に向けて、シニア、ジュニア男女４種別がアジア代表となり世界へ食い込んでいくことが、北京への道を切り開いていくことになる。今回のアジアジュニア選手権大会においても、まず、アジア代表となることが課せられた使命である。結果的には、４勝１敗で準優勝となり世界への切符を手に入れることができた。日本選手団は、選手・役員とも持てる力を結集し、最高に出し切って得た切符である。相変わらず大型の選手をポストに擁するカザフスタン、190、180、174㎝のバックコートプレイヤーを擁し大型でしかも潜在力を秘める中国、決して小型でなくシャープな左のロングシューターや力強くうまいセンタープレイヤーを擁しよくまとまっているタイペイ。日本は、参加国の中では形態的に劣り、バックコートプレイヤーに150㎝台もいる小型のチームで、しかも高校生コンビであった。勝利をものにできたこの３チームとの戦いはまことに厳しいものであったが、よくまとまり、耐え、頑張ってくれました。

▶選手の個性と頑張りを引き出した コーチング、メディカルスタッフの活躍

チームの統率、試合の采配、試合に対するトレーニング、選手のケア等役員の責務は重いものがある。ゲームに対する最高責任者の堀田監督、主に戦術トレーニングを担当した小林コーチ、女性として選手の間に立ち、またGKコーチや通訳も担当した北野コーチは、それぞれに力を発揮し連携して選手の力量・個性を十分に引き出していた。今回はタイに来る前からレギュラーの中にケガ人がいたことやタイに来てからのケガ（中国戦でGKがプレイングエリアに出てルーズボールを取りあい鼻骨の骨折と３針の裂傷）や病気で入院する者が出た。ドクターの甲斐先生及びトレーナーの陣上さんの献身的な手当てにより乗り切ることができた。この二人の役割はコーチングスタッフはもとより選手にとって大変に心強いものがあった。

▶まじめで上手な日本の選手

前回のU-19大会に出場したのはGKの２名のみであった。形態的に小さく、高校生主体のチームであったが、トレーニングに対する真面目さや勝利に対するひた向きな精神力は、十分に備えていた。大会はゲームだけでなく、対戦チームに対する分析やそれに基づいて作戦を練り、トレーニングしなければならない。選手はコーチングスタッフから情報を与えられるだけでなく、選手自らも相手を分析し、自分のものにしていく必要がある。選手達は、時間に追われながらも自ら進んでビデオを熱心に見て研究していた。このような主体的な取り組みの態度が、劣勢をもはね返す原動力になったものと思われる。そのような精神的特質だけでなく技術・戦術的にも高い能力があり、体力的劣勢を補っていた。高校生主体とはいっても、おそらく小学生からやっているものが少なからずいて、その経験が試合に生きていた。センタープレーヤーを中心に２対１、３対２の場面を上手につくり、ディフェンスの間をするするとカットインして得点を稼いでいた。ディフェンスでは体力的劣勢を補うために前に出て１対１を必死でまもっていた。それが後半になって相手のミスを誘い、またGKの好捕を引き出していた。派手さのないチーム構成であったが、コーチングスタッフが選手の役割を明確にあたえ、それに応えていった選手の真面目さがチームを団結させていった。

▶スタミナの維持

この日本チームがメンバーを維持し、世界選手権大会にむけて強化するとすれば、チーム戦術のさらなる強化と体力的面が課題である。個性を充分に発揮した効果的なチーム戦術と体力についてはもう少しがっちりとした形態となり、試合を重ねてもへこたれないスタミナを持つことである。

今大会は、棄権チームがあって５試合が全試合であった。日本チームにとってすべての試合が全力での戦いであり、スタミナの維持は大きな問題である。特に小柄な日本チームは大柄で体重のある相手と戦わなければならない。形態的ハンディを補うために日本でやっているときとは違い、通常以上のエネルギーが必要となり、体力の消耗は想像以上のものがある。第４戦目の韓国戦は、タイに入って９日目の戦いである。タイ、カザフスタン、前日の中国戦を戦っている日本は、既にスタミナ切れしており、回復はしていなかった。またお腹を壊して入院し当日退院して試合出場する者がいるなど、韓国に勝ちたいという精神的なものは十分に感じられたものの、既に勝負はついていたと思う。私が、彼女らに接して一番最初に感じたことは、食事量の少なさであった。コーチングスタッフの指摘があって改善されてきたが、遠征に来てからではなく日ごろから食事の量が少ないのではないかと感じられる。ナショナルチームの戦いは基本的には、異国での戦いである。気候、食事、生活など慣れない環境のなかで10日以上にわたって７試合ぐらいは行われる。この間、病気になることなくスタミナを維持していくためには、日ごろからの食生活に十分に気をつけ、世界に基準をおいた逞しい身体作りをしていくことが重要である。

▶最後に

今大会は、レフェリング等特に問題はなくフェアーな運営がなされていました。アジア連盟のメンバーも日本での国際大会が多くなったことから知り合いも多く、友好的な雰囲気が感じられました。選手団にとって異国の地では何かと不安があるが、日本チームづきの二人のタイ人女性の選手係は、朝早くから夜遅くまで献身的にお世話していただきました。また、病人やケガ人が出たときも夜遅くまで面倒をみてくれる大会関係者の好意は大変にありがたいものでした。選手が入院したとき、タイのお医者さんと甲斐先生の間にたって通訳してくれたタイ人女性の村田さんは（ご主人が日本の方で２ヶ月前まで札幌在住）、北野コーチと偶然に知りあった方でしたが、急な通訳のお願いを快く引き受けていただきました。その他日立製作所のタイ支社の方など、多くの方々に支援していただいたお蔭で無事帰国できましたことを紙面を借りてお礼申し上げます。

監督のコメント

第８回アジア女子ジュニア選手権に参加して



監督　堀田 敬章（財日本ハンドボール協会）

▶選手選考から大会開始まで

‘03年12月のNTSセンタートレーニング。さらに170㎝以上の大きな選手をピックアップし、高校選抜大会を視察した中から、トータル27名をリストアップして５月中旬より強化合宿をスタート。基礎トレーニングに始まり、北國銀行や、全日本チームとトレーニングマッチを繰り返し、アジアを勝ち抜くための16名を選抜。そのうち高校生が７人と、非常に若いメンバー構成となった。

今回のアジア選手権は、当初６月10日からカザフスタンにて行われる予定であったが、７月タイに開催地変更となった。しかも大会日程が流動的で直前までやきもきさせられた。エントリー国も最初は９チーム。２グループでリーグ戦後、上位２チームで準決、決勝を行い、３位までが出場権を得るが、前回のシード権（順位）を無視したようなグループ分けがあり、大会が近くなるにつれ、辞退国も出てきて７カ国になった。今までの経験や流れから、現地入りしてから組み分けや対戦順等が変更されているのでは？と危惧しての大会入りであった。

▶大会が始まった

６月28日、関西空港よりタイのバンコク空港へ。さらにそこからバスで２時間、試合会場のスファンブリに到着した。

翌日、練習会場にてトレーニングをスタートした矢先に組み合わせを手渡され、目を疑った。何気なく目を通したら、違うグループのはずのカザフスタンとの対戦があるではないか！よくよく確認してみると、新たに辞退国が出て、６カ国による総当り戦に変更されたとのこと。そのことで、チームはゲームに向けて緊張感が加速した。

７月１日、オープニングゲームにて開催地のタイと対戦。立ち上がり固くなるのでは？という不安もなく快調にリードを広げた。後半の中盤にもたつきがみられたが、危なげなく初戦を終えた。その後の韓国VSタイペイ戦、２日の中国VSカザフ戦と、対戦前にすべてのチームを観られるということで、対戦順に運があると予想していた。がしかし､その楽観視は覆され、今後どの対戦もかなり厳しくなると､かなりの危機感を感じた。

３日のカザフスタン戦､重苦しい立ち上がりから先制するも、ポストを警戒したDFの間隙をロングやサイドで突かれ、追う展開に。なんとか食らいつき、後半にはDF、GKが対応し始め、速攻等で逆転。６点リードから抜け出せず、終盤追い上げられたがダメ押しゴールで逃げ切った。チームが勢いに乗った。

▶繰り返されるミーティング

休息日を挟み、中国・韓国との連戦を控え、スタッフ間でミーティングが繰り返された。カザフに勝ち、上位への兆しが見



え、３位以内を是が非でも確保せねばならなかった。特に中国は大きさに加え、ナショナルと合同トレーニングをかなり積んでいることが伺え、個人技や速攻・クイックスタート等にかなりの脅威を感じていたためである。

ここまでの戦いぶりでは、韓国のほうが組みやすいという印象を受けていた。そのことから、中国に最後まで勝負を挑み、もし負けた後のショックやその状態で韓国と勝負できるのか、連戦のスタミナは大丈夫だろうかとの懸念があった。

結局、試合当日の朝のトレーニング前、とにかく目の前の相手に全力でぶつかろう！ということで、スタッフ間で意識統一がなされた。

▶上位入賞を目指して：中国戦

いよいよ中国戦がスタート。トップを一人上げた 5-1DF でスタート。中国のほうは、キープレーヤーの攻めの位置が変わっており、プレス DF を仕掛けてきた。カットインで先制するも、DF が機能せずリードされる。執拗にポストを利用してきていたので、6-0DF でラインを下げて応戦。個人技を守りだし、逆に中国は下がった DF にも変わらずポストに入れようとしてきた。後半始まって間もなく、GK がセンターライン付近のルーズボールを追って、相手選手の膝と顔面を激突！　かなりの出血をして負傷退場となる。このファイトに代わって出た GK や CP が、触発されたかのように大活躍。接戦をものにした。強化合宿時には、盛り上がりに欠けるおとなしい集団でもどかしさを感じたが、この連勝で、内に秘めた闘志というか、逞しく思えた。優勝を意識できる状態となってきた。

▶戦いは内にある

しかし、ここで新たな問題がチームを襲う。先日のカザフ戦後、高熱で入院していた選手に加え、この中国戦後にまた一人胃痛を訴える選手が。あとから合流してきた Dr. を待っていたかのように、病人・けが人続出…。

試合では冷房が利いているが、練習場は異常に汗をかく。また水・氷等の衛生面や環境の違いに疲労が蓄積、いよいよ悲鳴を上げ始めたのかと思われた。

▶暗雲がよぎる

６日の韓国戦。３勝同士での首位決戦、本人の強い出場意欲に、点滴のみの１日入院で強行出場。負傷した GK も戦列復帰。しかしまったくチームが機能しない。逆に韓国は、全勝対決ということに加え、日本に対する意地からか、それまでとは見違えるような集中力を 60 分間持続させた。一方的な試合内容で、優勝どころか、３位以内にも暗雲が立ち込めた。次のチャイニーズタイペイは、前回ヨルダンでドロー。その前の世界選手権で２戦２敗と、日本に対して自信をもっている。今回もカザフから 40 得点、韓国にも中国にも接戦と食い下がっている。日本はこれに負けると４位になってしまう。休息日で、近くのお寺に全員で必勝祈願！　トレーニングとミーティングで次に勝負を賭け、しっかりと意識統一。高熱を出していた選手もようやく退院してきた。

▶最終決戦、女子 Jr. 過去最高の２位

８日、いよいよ最終決戦。3-2-1DF で積極的に勝負を仕掛ける。サイドから先制するも守りきれずに拮抗した展開となる。ようやく５点差をつけるが、タイムアウトをとられその後退場もでて１点差。後半も 6-0ＤＦが守りきれず、取っては取られで遂には逆転されてしまう。ここから GK が日本のピンチを救う。７mT から始まり、相手シュートをことごとくはじき返す。その間に怒涛の攻撃で突き放して勝利。呆然とするタイペイベンチを尻目に歓喜の円陣が続いた。

その後、韓国が中国を接戦でものにし優勝。日本が２位となった。また地元のタイがカザフを逆転で退けた。

▶世代最強チーム編成に感謝

７人の高校生のうち、４人がスタートメンバーとして出場。経験はもとより、身体的にもかなり見劣りする。しかし、負けず嫌いの選手が多かったためか、勝負所で強気のプレー（特に OF 面）でうまく乗り切れたように思う。優勝した韓国と比較すると、点差ほどの実力差はないと思うが、パスのスピードやここ一番での集中力、判断力にはまだまだ韓国の伝統は途切れていないと感じた。体力面にも不安が残った。アジアだから何とかなったが、これがもし世界を相手にしたならば、とても戦える状態ではないと痛切に感じた。現在のような強化期間では、とても目標をクリアできるとは思えない。

今回、これまで続いてきた女子ジュニア世界選手権への出場権を、獲得して帰ってこられたことには本当にほっとしています。インターハイ前の非常に大事な時期、そして学生も試験と重要な時期であるにも拘らず、この世代最強のメンバーで望むことができました。所属先の監督・先生、そして関係先の方々に快くご協力頂きまして感謝しております。本当にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。

▶まとめとして

そして今回の大会で、頑張ってくれた選手をなによりも褒めてあげたいと思っています。また私自身、大西団長を先頭に小林・北野両コーチに、甲斐ドクター・陣上トレーナーの存在な



くしては、決してここまで来れなかったと思っております。ありがとうございました。

これらの経験を来年以降、そして将来に生かすためにも、今現在、日本を強くしていこうと協力体制が整いはじめているこの状況を、より強固なものにしていけるようハンドボール好きの一人として、一層努力していきたいと思っております。

選手のコメント

アジア予選大会を終えて

下地 ゆいの（筑波大学）



「こんな小さいチームで戦えるのだろうか。」

最終選考結果の通知名簿を目にした時の正直な私の気持ちだ。

過去2年、ジュニアのアジア予選、世界選手権を経験させてもらったが、今年のチームは平均身長が一番小さい小柄なチームだった。私は正直、中国やカザフスタンのような体格の差が明らかなチームに対して、小さなこのチームで太刀打ちできるのか、と不安だった。日本女子のジュニアチームは毎回世界選手権に出場している。今年、このチームで世界選手権の切符を取って帰らなければ…。見えないプレッシャーをチームスタッフ、選手それぞれが感じて大会に入った。

1試合目、ホーム・タイとの試合。国際試合とあって緊張もあったのか、動きが硬く勝ちはしたものの、納得のいくものではなかった。2試合目、3試合目といずれも体格差のあるカザフスタン、中国との試合。相手との身長差は15cm近くあったが、それを思わせないプレーを思い切り見せてくれた。小さい選手が勇敢に、自分より15cm近く大きい先取得点を取ってディフェンスに帰ってくる姿を見て私は物凄くパワーをもらいプレーすることができた。今大会を通じて得るものが多かったと思います。

今大会に参加するにあたってお世話になったナショナルの皆さん、応援して下さった皆さんにとても感謝しています。今大会で得たものをこれからの競技生活に生かしていきたいと思います。各チームに戻っていった2004ジュニアメンバーに負けないように今後のトレーニングに励みたいと思います。そして、世界選手権で、またみんなとプレーが出来ることを目標に…。

選手のコメント

チーム力はアジアNo.1

高橋 恵（桜花学園高校）



今回のアンダー19に選ばれ、アジアの色々な国と戦ってきました。最初は高校3年間の集大成ともいえるインターハイの直前にチームを離れることが嫌でした。しかし、合宿を重ねるごとに海外の大きな相手と試合が出来ることがとても楽しみになってきました。合宿は、毎日毎日基礎練習ばかりで、辛い時もあったけど北國銀行の方々の力を借り少しずつチームらしくなってきました。

試合は棄権チームが出たため、全チーム総当たりとなりました。日本の試合日程は運が良く、全チームの試合を観て相手の特徴をつかんだ上で試合が出来ました。

私が一番心に残っている試合は中国戦です。前半ディフェンスミスから相手にリードを許してしまいました。後半始まってすぐに、相手のワンパスをカットしに行ったGK下地さんが相手と接触、頭を切るケガをしてしまいました。これからという時のケガで、少し不安を感じたけれど、下地さんの分までとチームはグッと引き締まりました。大会を終えた時、私達の試合を吹いてくれたレフェリーの方にチーム力はアジアNo.1と言ってもらえました。やはり、みんながまとまった時は強いな、と実感しました。スタッフの方々にも技術面はもちろん、精神面も支えてもらって、この結果が出せたのだと思っています。

このアジア大会で学んだことを生かして、今度は自分のチームで優勝目指して頑張りたいと思います。

第1回アジア女子ビーチハンドボール選手権大会兼第2回世界ビーチハンドボール選手権大会アジア女子代表決定戦

世界へ飛躍！ 勝ち取った市民スポーツの勇



シュートする伊藤選手

日本のビーチハンドボール発祥の地千葉県富浦町原岡海岸において標記大会が7月26日（月）開催されました。日本チームは中国香港をセットカウント2－0で破り、本年11月にエジプトで開催される第2回世界ビーチハンドボール選手権の出場権を獲得致しました。日本としましては、秋田で開催されました第1回大会（ワールドゲームズ）に続いての出場となります。



選手団名簿

団長	本間誠章
監督	原田　悟
コーチ	井口京子

氏名	所属	出身大学
藤平晃子	横浜市スポーツ振興事業団	筑波大学
鵜飼淳子	松本南幼稚園	順天堂大学
梅田知子	玉川大学1年	―
岩田　藍	順天堂大学1年	―
石塚麻衣	無職	東京女子体育大学
村田紀子	国分寺町立国分寺中学校	東京女子体育大学
井口京子	武蔵野市立第六中学校	東京女子体育大学
伊藤智絵美	明治学院大学	日本体育大学
岡田朋子	国際武道大学2年	―
酒井めぐみ	矢巾町立矢巾北中学校	日本体育大学

日本選手団団長の声

富浦の地で花開いたビーチ・クイーン

団長　**本間 誠章**（財)日本ハンドボール協会参事）



ハーフタイムに指示をする本間団長

千葉県、富浦の地でビーチハンドボールの日本での産声を上げて8年、今回、世界選手権大会を開催し、日本チームが勝利し世界選手権への切符を手に入れることが出来ました。特筆すべき事は、今回のメンバーが一人として特定のチームに所属していない選手だと言うことです。彼女たちは、富浦の原岡海岸で開催された大会の常連で、スポーツを愛し、ビーチハンドボールを愛好する一般市民の代表です。その彼女たちが世界への切符を勝ち取ったことはこの上ない喜びです。私自身は、今大会では大会開催の事務局長として、日本選手団団長としても大変嬉しく思っております。

大会開催は二転三転し、やっと開催に漕ぎ着けたという感じです。参加チーム不足で大会中止、香港チームのエントリーで日本ハンドボール協会から大会開催要請があったのが今年の6月19日。既に町へは大会中止を連絡しており、組織委員会も解散していました。しかし、何が何でも開催したい、選手達をエジプトでの世界選手権に派遣したい、8年間富浦で大会を開催してきたのだからやれる、準備不足ではあっても開催しなければならないと感じました。

日本代表メンバーに不安はありました。競技スポーツではなく、レジャースポーツとして体験した選手が通用するか、日本代表としてやっていけるのか。幸い、日本協会からは「日本代表チーム」として認可していただき、選手達もその誇りと責任でコートに立つことが出来ました。しかし、香港がどの様なチームか全く情報が入りません。大会開催要求や、砂浜のない香港なので大学の体育館に砂を運び入れ練習してきたとのこと。ゲーム前から不安が募りました。

大会は日本対香港の1マッチ・ゲーム。結果は日本チームの2セット連取で勝利。戦いは戦い、終われば和やかになれるのがスポーツの素晴らしさ。歓談、記念撮影と大会を無事終了させることが出来ました。富浦の地で、初めての国際大会開催で、AHFメンバーの来訪、オフィシャルミーティング、パスポートコントロールなど問題もありご迷惑をおかけ致しました。

最後になりますが、今大会は富浦ビーチハンドボール協会の吉野千里さん、河口隆司さん、鶴岡一弘さん、内記英夫千葉県協会理事長はじめ、千葉県協会の皆様の力無くしては開催できませんでした。お礼申し上げます。日本協会からは大西専務理事、緒方強化部長はじめ多くの方々に来場いただきました。日本ハンドボール協会事務局の方々にはいろいろとご指示、ご協力いただきました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

監督の声

ビーチハンドボール愛好者の代表として

代表チーム監督　**原田 悟**（㈲ボディー・ファクトリー）



はじめに、第１回アジアビーチハンドボール選手権大会開催にあたり、日本協会・ビーチ委員会・千葉県協会・ビーチ愛好家の皆様の御協力を頂き感謝いたします。

今大会は、香港と日本の２チームで、アジア代表決定戦を行うこととなりました。選手選考は、去年の全日本大会優勝の藤乃を中心に、今年５月の関東大会からも選手選考をし、「日本代表」としてふさわしい選手を、ビーチハンド愛好家で編成し、井口さんをコーチ兼プレーヤーに、藤平さんをキャプテンにおき、選手一人一人の職人技ともいえる技能を集結し、一つのチームとしました。その結果、香港を破り世界選手権出場となりました。

今後の課題として、戦術分析・競技力の向上をはかり、世界選手権に望みたいと思います。強化合宿の日程調整や、遠征費の自己負担など大変ですが、ビーチ愛好者が、日本ハンド界の歴史に新しい１ページを刻み、また、新たな挑戦へ、スタッフ及び、選手一同、総力を結集していきます。

コーチ兼任選手の声

勝ちたい、それが勝因でした

代表チームコーチ兼任選手　**井口 京子**（武蔵野市立第六中学校講師）



第１回アジアビーチハンドボール選手権において、香港を２－０で破り、世界選手権出場を果たしました。予選に出場した一人として、日本協会、千葉県協会、ビーチハンド愛好者始め、関係いただきました皆様には大変お世話になり、心よりお礼申し上げます。

相手チーム、香港については、試合当日まで何の情報もなく、逆に、香港を意識することなく、自分たちのプレーに集中できました。そして、私達が香港より強く思っていたこと、それは、



大会終了後日本、中国香港両チーム、AHF 役員と共に全員での記念撮影

勝ちたい、いや、勝たなければならないという気持ち。勝因は、それらと、日本チームが、ビーチハンドの楽しさも、その中での勝負所を知っていたことであると思います。もしというなら、香港がGKの攻めで、クロスからカットインなどで、変化をつけれたら、勝負はわからなかったかも知れませんでした。

今後の課題として、香港戦での反省をもとに、技術戦術を分析し、大舞台で120％のパフォーマンスができるようにメンタル面も鍛えていきたいと思います。世界選手権では、2001年ワールドゲームズ日本代表チームより上を目指します !!

選手の声

アジアビーチハンドボール選手権を終えて

伊藤 智絵美（明治学院大学）



この大会で世界選手権への出場権を手に入れた事、心から良かったと思っています。中国香港がどの様なチームで、どんな選手がいるのか全く情報がなく当日まで自分達のチームプレーを合わせることだけが課題でした。大会を運営して下さった方々や、応援をして下さった皆様の為にも試合はなんとしても負けたくないという気持ちを全員が強くもっていました。大会２日前から合宿に入り、練習していく中で話し合う事が徐々に増え、試合時には互いの意思疎通が出来る様になりました。試合では確実な得点、速攻時の敏速なメンバーチェンジということを課題に望みました。相手はスカイプレーを狙いながらも得点につながっていなかったので日本のチャンスが多かった事も勝因だと感じています。

今大会で個人の役割、チームの課題がはっきりしたので、世界選手権までの限られた時間で精一杯調整していきたいと思います。そして、どんな時でも前向きに戦う気持ちを忘れずに１試合でも多く試合ができるよう頑張る決意です。

連載 45

NTS2004 DVD発売！

NTSコーディネーター　栗山　雅倫

2004年度版のNTS指導教材、DVDが完成致しました。
テーマは「目指せファンタジスタ」、本年度のキーワードは「Mobility（機動性）」です。当協会、強化委員会が示した、昨年度までの日本が国際舞台で抱える課題をもとにして、世界にはばたくプレーヤーの発掘・育成を目標と致しました。
DVDは、2000年、2002年に発売致しましたビデオと教本を合わせた、電子教本として製作されたものです。
昨年度、試行版の販売の折には大好評を頂いております。DVDは、一般のDVD再生機はもちろん、対応するパソコンの他、プレイステーション2などでもご覧頂けます。
また、今回は以下の3種類のDVDをご用意しています。

~for coaches~

指導者を主に対象。
ビデオと教本の一体化、電子教本をイメージしています。

~for players~

選手向けにはイメージの提供が大事とし、イメージビデオ的なものを目指しました。指導者向けのDVDの内容とリンク。
オリンピック予選の映像で編集。

~for kids~

小学生の指導者が主な対象。
小学生段階の指導法普及を目指したもの。
説明の冊子がセットでついてきます。

それぞれ用途は違いますが、NTSとしてお伝えしていく内容で、全てに繋がりを持たせております。指導者の方にも選手向けのDVDがあればより解り易くなり、選手も指導者向けのDVDをともにご覧頂ければ考える姿勢が養われるのではないでしょうか。この機会に是非ご購入下さい。

~for coaches~	3,000円
~for players~	2,000円
~for kids~	3,000円

（価格にはすべて送料も含まれます）

希望される方はタイトル、部数を明記、右記の事項を記入の上、現金書留にてお申し込み下さい。

申込先：〒150-8050
東京都渋谷区神南1－1－1
㈶日本ハンドボール協会
「NTS DVD」申込係
記入事項：注文タイトル、注文数、
購入希望者氏名、
送付先（郵便番号、住所、TEL）

コンチネンタル・レフェリー誕生

本年6月、北京において開催されましたIHF/AHFレフェリーコースに、日本から永春、安田ペア（東京）が参加致しました。今後ペアは、コンチネンタル・レフェリーとして登録され、国際試合を担当します。



コンチネンタル・レフェリー　永春 文義（都立府中養護学校）

今回、6月8日～17日まで北京において、IHF/AHFレフェリーコースに参加してきました。

講義はとても充実していました。講義は、ルール（オーバーステップ、段階罰など）に関して細かく指導されました。午後は、試合見学及び実技テストでした。講義の中で、これからの国際審判員は、量より質の時代になったと言っていました。現時点では、各国にIHF 3ペア、AHF 2ペア、計5ペア登録することが出来ます。自分自身も国際審判員になったからといって自己満足で終わるのではなく、世界に通用するレフェリーになるために努力していきたいと思います。

最後に、このような機会を与えていただいた斉藤審判部長、日本ハンドボール協会の方々、職場の同僚に感謝しています。



コンチネンタル・レフェリー　安田 寛（都立目黒高等学校）

この度、中国北京で開かれましたIHF/AHFレフェリーコースに参加させていただき、コンチネンタル・レフェリーとして国際審判員の仲間入りをすることが出来ました。8日間にわたったコースは予想していたより遙かに密度の濃い、充実したものでした。この中で、まだまだ自分は力不足で、これからの努力が本当に大切だと言うことを痛感してきました。我々は実力があるから選ばれたのではなく、これからを期待されてここにいるのだと言うことはわかっているつもりです。責任の重さを常に忘れず、信頼されるレフェリーになれるよう、頑張っていこうと思います。これがゴールではないので、おきまりの謝辞ではなく、お願いを持って終わりにします。日本協会斉藤審判部長、諸先輩方、後輩諸君、今後ともご指導の程、宜しくお願い致します。

◆ハンドボール・アラカルト◆　切手に見るハンドボール（9）

今月号も先月号に引き続きオリンピック切手を紹介致します。今回は1992年のバルセロナ大会（スペイン）です。残念ながら日本は参加していません。正確に言えば、ソウル大会を最後にハンドボールで日本はオリンピック大会から遠ざかっています。北京大会へは必ず出場してもらいたい。

男子は12カ国、女子は8カ国が参加しました。優勝は男子はEUN（旧ソ連）が、準優勝スウェーデン、3位はフランス。女子優勝は韓国、準優勝ノルウェー、3位はEUNでした。

バルセロナオリンピックのハンドボール切手も多数発行されています。今回はその中からEUN（切手①）、ルーマニア（切手②）、シリア（写真③）、グレナダ領ヅレナディーン（切手④）を紹介します。切手③、④をよく見て下さい。全く同じ構図で③は絵、④は写真を使用しています。尚、写真は韓国女子のようです。



切手①



切手②



切手③



切手④

「集客作戦、効果あった」

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

日本中を半月間にわたって興奮させたアテネ五輪、21世紀初の世界最大のスポーツの祭典が終わった。

さて、次期五輪・北京大会をにらんだ日本代表がスタートして半年近くになる。その第一歩となる女子のアジア選手権が広島で行われ、日本は29年ぶりに韓国を下すという“快挙”を達成してアジアの女王に輝いた。

ただ、手放しで喜んでいいかというと、それは早計すぎる。何せ、出場した日本を除く３チームはいずれもジュニアクラス、あるいはそれ以下の陣容。「勝って当然」の中での優勝ではあったが、立て直しを図るうえではひとつの自信にはなったことだろう。

これから来年の世界選手権へ向けてさらにチームの成熟度を上げていくことが最重要課題である。中間層や若手の底上げが急務であることは明らかである。

ところで「男女そろって強豪」を擁する広島。いまや“ハンドボール王国”と言ってもいいほどの力を誇っている。しかし、ここにも悩みがある。集客力不足である。日本リーグでいくら白星を積み重ねても、スタンドは寂しい限りといった状況が続く。「弱いと集まらないが、あまり強すぎてもファンは来ない」状態が現状と言えるのかも知れない。

今回のアジア女子選手権を開催するに当たって、広島県・市協会が最も頭を悩ましたのが「いかにしてファンを呼び寄せるか」であった。準備段階において必ずといっていいほど議題に上がったのが「集客作戦」であった。

そこで実行に移したのがドッジボール教室、ハンドボール教室の開催である。広島はドッジボールに関して過去、何度も全国優勝を誇る地域である。全国大会出場を控えたクラブの手を借り、協会の助けを得て、県内の小学生を集め基礎を学び、女王メイプルレッズとの親善試合を組んだ。ハンドボール教室には山口県の小中学生チームが参加、子供たちのはしゃぐ声がコートに響き渡った。教室が終わったあとはアジアの高度なプレーに触れた。普及にとどまらず、ハンドボールの楽しさを実感できたことだろう。こうした地道な努力がファンを増やすことにつながるはずだ。関係者は「多くのファンを獲得できてよかった」。まずは集客作戦第一弾は成果があった。継続に自信を深めたのは間違いない。





『It is possible：日本ハンドボールが輝く日』

著者：帯金 充利（静岡県立伊豆中央高等学校）

日本ハンドボールの歴史とハンドボールの魅力を記した本が出版されました。『It is possible・日本ハンドボールが輝く日』（そうぶん社）です。著者の帯金氏は現役高校の指導者で、ハンドボールを身近に、そしてその魅力を十分に熟知した者のみが書ける文章満載です。
今回は、著者に編集委員会がインタビュー形式で著書について語っていただきました。

執筆の動機

私は1997年の熊本世界選手権の日本ーフランス戦を観に行きました。残り0.2秒で負けてしまいましたが、日本の健闘に感動しました。実は、その半年ほど前、名古屋で行われた日本ースウェーデンの試合を観て、日本のハンドボールのつまらなさ、弱さにがっかりしていました。オルソンが監督になったということで注目していただけに、「オルソンは、いったい何をやっているんだ」という気持ちにさせられてしまったのです。ところが、世界選手権本番のフランス戦での日本はすばらしかった。半年前と同じチームとはとても思えませんでした。それで、私は、オルソン監督時代のことを書き残しておかなければならないと思い、原稿用紙80枚ほどの文にまとめました。それが、『It is possible』の第三章です。それから何年かたち、オルソン監督時代のことも含めた日本ハンドボールの歴史を書こうと思い立ち、仕上げたのが『It is possible』です。ですから、第3章と他の章では、文の感じが違っているかもしれません。

執筆、取材活動について

私が取材したのは、中部大学の蒲生晴明氏、湧永製薬の酒巻清治氏、元NHKの杉山茂氏、大崎電気の竹野奉昭氏、日本ハンドボール協会、スポーツイベント社ぐらいのもので、あとは『日本ハンドボール史』、『60周年誌』、『スポーツイベント』、それに機関誌を調べました。取材で苦労したことはありません。皆さん快く話を聞かせてくれました。ただ、遠くに住んでおられる方ばかりなので、限られた人にしか会えなかったこと、何度もお話を聞くことが出来なかったことが残念です。苦労したことと言えば、かつての名選手の中から誰をピックアップするか、ということでした。この人を取り上げたらあの人も……という感じになってしまいますので、最小限の人たちにせざるを得ませんでした。

取材活動をとおして

取材活動で特に印象に残ったことは、杉山茂氏が日本ばかりでなく、世界のハンドボールの表からウラまで、あらゆることについて知っておられることにびっくりしました。こういう人がいられたからこそ、日本ハンドボールはここまで来られたんだな、という思いがひしひしとしました。竹野氏や、蒲生氏の話からは、モスクワオリンピックの頃の日本チーム（男子）は強かったことが伝わってきました。かえすがえすも出場辞退が悔やまれます。

ハンドボールとの出会い

私は東京理科大学の理学部数学科の卒業で、数学の教員です。小学生の頃はソフトボールが大好きで、毎日のようにやっていましたし、高校野球も大好きで、テレビにかじりついて観ていました。ところが、入学した中学校に野球部がなく（これはショックでした)、しかたなくバスケット部に入り、中学、高校の6年間続けました。大学時代は運動はやりませんでした（オーケストラ部に入ってコントラバスを弾いていました)。

ハンドボールとの出会いは、教員になって2校目の御殿場高等学校で女子部の顧問につけられたのがきっかけです。たまたま、この学校は強豪で、常に県でベスト4に入っているようなチームでした。それで、「顧問が帯金になったら弱くなった」と言われたくなくて、必死にルールや練習方法を覚えたり、勉強したりしました。それまで、ハンドボールは見たこともない競技でしたから、最初は嫌でしかたありませんでしたが、年がたつうちに、夢中になってしまい、学校は変わりましたが、今年でハンドボールの顧問になって21年になります。

指導者、裏方として

御殿場高校４年、富士高校７年、沼津工業高校５年、現在は伊豆中央高校で５年目です。その間、平成６年には富士高校で、インターハイ（氷見）に出場し、ベスト 16 まで勝ち進むことが出来ました。その恩返しをしようと思い、県ハンドボール協会の事務局も６年ほど務めさせていただきました。また、審判もＢ級を持っており（取らされた、というのが正直なところですが）、今でも東海大会の審判にかり出されます。もう年ですので、引退したいと思っているのですが、なかなかそうもいかなくて困っています。

ハンドボールの魅力

まず、７人全員が気持ちを合わせ、力を合わせないと試合に勝てない、というところがハンドボールの魅力です。特にディフェンスでは、一人だけ気が抜けている選手がいれば、必ずそこから点を取られてしまいます。二つ目は、体の小さい選手でも働く場所がある、という点です。これはバスケットボールやバレーボールと違うところですね。それから、ノーマークになってもゴールキーパーとの対決が残っているという点。これは迫力があります。もちろん、走、投、跳の要素が盛り込まれている点が魅力であることは言うまでもありません。特に速攻の魅力は格別です。山村選手のいた頃の本田技研の速攻のすばらしさは今でも忘れられません。豪快なロングシュートも大きな魅力の一つです。玉村選手や西山選手のロングシュートは見事でした。今の全日本に、ああいうロングシュートが打てる選手がいないのは残念なことです。そのかわり宮崎選手というすごいプレーヤーがいますけれどね。

これからの執筆計画

現在の作品数は 60（長編 15、中編 10、短編 35）で、そのうち本になったのは５冊です。（『It is possible』はその４冊目で、５冊目の本は、『日本の国という水槽の水の入れ替え方』といって、数学者・岡潔氏の書き残された文章を集めて解説を書いたものです）。今年、自費出版で童話の本を出すことになっています。それから、９月か 10 月になると思いますが、『親父のためのクラッシック入門～バロックから現代音楽まで』という本が新泉社というところから出る予定です。その他、売り込み中の作品がいくつかと、これから書く予定のものが５つほどあります。

ハンドボールの更なる発展のために

マスコミにハンドボールをもっと取り上げてほしいと思います。以前、「たけしのスポーツ大将」という番組があって、ハンドボールも、たけし軍ー明星高校の試合など、けっこう盛んにやっていました。そのたけし軍の中にかつて全日本だった近森、関、松井などの選手が入っていたものです。全日本総合のようなまじめな試合ももっともっと放送してほしいし、たけし軍のような番組もあっていいのではないでしょうか。テレビ神奈川のように、ハンドボールに対して好意的なテレビ局もあるわけですから、日本協会からも、もっともっと働きかけてほしいと思います。

ハンドボールへのエール

今、日本のハンドボール（特に男子）は確実に力をつけてきていると思います。ぜひ、北京オリンピックに出場して、そのプレーを多くの人にテレビで観てもらいたいと思います。しかし、企業スポーツとしてのハンドボールはきわめて厳しい状況におかれています。ここは、ハンドボールに関わっている者全員が一体となってハンドボールの普及に努め、せっかく上がってきたレベルを落とさないようにしなければなりません。選手の皆さんにも、強い気持ちでがんばってほしいと思います。

著者略歴：帯金充利（おびがね　みつとし）

1956 年、静岡市に生まれる。1980 年、東京理科大学理学部数学科卒業。同年、静岡県で高校教諭となる。現在、静岡県立伊豆中央高等学校教諭。

主な著書は、「新美南吉紹介」（三一書房）、「再来ー山本玄峰伝」（大法輪閣）、「天上の歌　岡潔の生涯」（新泉社）など

ハンドボール フランス代表の強さ❶



男子ナショナルチーム
田場裕也（フランス：ニーム）

男子ナショナルチーム代表で、フランス、ニーム所属の田場裕也選手からレポートが届きましたので、今月、来月の２ヶ月に渡り掲載致します。
田場選手は1975年９月12日、沖縄生まれ。沢岻小でハンドボールを始め、浦添中、興南高、日体大後、湧永製薬入り。スペイン留学後２年間湧永製薬に戻るが、一昨年からフランス一部リーグのニームで活躍。

クロアチアで行われた2003年女子世界選手権でフランス代表が初優勝を飾った。ここ最近のフランス代表は男子も好成績（2001年世界選手権フランス大会優勝）を残している。フランスが初優勝を飾ったのはジャクソン・リシャーソン選手やステファン・ストックラン選手、フレデリック・ボル選手を擁した1995年の男子世界選手権（アイスランド）が初めてで、それほど歴史は古くない。この10年間でフランス代表がどのようにして強くなりえたかを、フランス国内で実際にプレーしてみたことも含めリポートしたい。

このレポートはハンドボール選手育成のための私案で日本ハンドボール協会宛に作成したものですが、願わくは多くの指導者が、フランスのシステムを参考にして指導に役立てていただければ幸いです。

フランス代表の特長

フランス代表を見て最初に受ける印象は、多国籍人種の集まりだということです。フランスでは､国民のほとんどが移民で、純粋のフランス人を探すのが難しいと言われているほどです。

サッカーにしてもスーパースターのジダンはアルジェリア系だし、ピレスはポルトガル系、ディフェンスを形成しているのは、ほとんどがアフリカ系。ハンドボール代表で言えば、ケルバチックやゴリッチなどは旧ユーゴスラビア系､フレデリック・ボルもスペインの血が入っているし、ジャクソン・リシャーソン、パトリック・カサルやナシスはフランスには属しているものの、アフリカ大陸の横にある小さな離島レユニオンの出身である。僕のチーム（ウサム　ニーム）にしてもセネガル系がいるし、イタリア系やアラブ系の選手も属している。

フランスがスポーツで成功した一番の理由は、フランスのシステムに多国籍人種のフィジカルをうまく融合させたことだと思われる。フィジカルの強いアフリカ系選手がフランスの確立されたシステムを理解し、さらに彼らのオリジナリティーをその中でうまく活かしているので、よく機能していると思われます。また、小さいころからアフリカ系のフィジカルに対して、どのように対応すればよいのかフランス人は経験から学んでいるので、様々なケースに対しても対応が速い。例えば日本ではアフリカチームと対戦する機会が無い（少ない）ので、アフリカ系や自分以上にフィジカルの強い選手への対応が遅いと思われます。フランス人ならアフリカ系に対しては、メンタルで、東洋人に対してはフィジカルで、と使い分けた試合展開ができる。ハンドボールは経験が大きく左右するスポーツなので、若いうちにいろんな人種､システムの違うチームとの対戦機会は、選手を育成する上で大きなメリットになっている。

フランスの選手育成システムについて

フランスでは『セントロ　ヂ　フオルマション』という若手を育成するシステムが存在します。これは将来有望な若い選手を発掘・育成しようというのが狙いで、日本のNTS（ナショナルトレーニングシステム）と同じ考えです。『セントロ　ヂ　フオルマション』は、15歳から22歳までを対象にし、国とハンドボール協会、クラブの三者で協力しあい育成するシステムです。

日本と違うのは、その育成方法です。フランスの場合だと、15歳までは６－０ディフェンスをすることが禁じられています。試合でもトレーニングでも15歳以下は６－０ディフェンス以外のシステムをとらなければならない。その中で最も多いのは３－３ディフェンスとオールマンツーマンである。なぜ15歳以下は６－０ディフェンスが禁止されているかといえば、15歳までは大きい選手が６－０システムを使うと、堅固な守備になるため、トレーニングにならず、個人技のプラスにもならないと考えているようです。体格的に大きな選手もオールマンツーマンなどで、ディフェンスをかわす動きを覚えなければいけないし、ボールが無いところでの動きや、スペースをうまく利用する方法は、15歳までに習得するほうが望ましいと考えているようです。

15歳までの勝ち負けはほとんど重要ではなく、個人技、スペースを利用する動きが大切である。15歳から18歳までは、システム、組織、戦術を覚える期間であり、少しずつ試合で勝つことも重要になってくる。18歳から22歳では、個人技、戦術システム、フィジカル（ウェイトトレーニング等）が大切になり、勝ちを目標にしたトレーニングが行われる。
『セントロ　ヂ　フオルマション』は人材発掘も兼ねて行われているが、基本的に15歳以下の選手発掘・育成はフランスハンドボール協会とクラブがうまく連携を取って行われている。

一番評価できる部分は、トップチームの選手が直に指導にあたっているということです。僕たちのチームでも、選手がクラブと契約して、子供たちに教えている選手も多く、また毎週水曜日はＡチームのトレーニングに選抜された若手選手が参加できるシステムも継続的に行われている。プロ選手から生の指導を受けた若い選手は伸びが速く、意識も高いのでプロ選手を育てるには優れたシステムと思われます。このようにフランスでは一貫性指導がうまく機能しており、若い選手でもプロチームや代表チームにすんなり適応できるというすばらしい利点があります。

日本では教育色の濃い指導が一般的ですが、順次NTSを中心とした一貫性指導がどれだけ浸透するかが､これからの発展、強化に繋がるのではないかと思います。

ディフェンスシステム

フランスのディフェンスはスペインと同じく5-1DFか、それよりも高めの3-2-1DFを起用する場合がほとんどである。その理由としては、ドイツ人やロシア人または北欧の選手のよ

うに、上背の大きな選手が少ないからです。従ってアグレッシブな DF 隊形を取らなければならないのですが、その DF は世界でもまれに見る荒っぽい DF です。フランスではラグビーの影響も大きく、コンタクトがとても強いのです。基本的には 1 対 1 を守ることが重要とされていますが、抜かれたときのフォローは非常に速い。特に崩すのが難しいのが、アグレッシブな 3-3DF に近い 3-2-1DF で、普通に攻めたら 1 対 1 でかわすのも難しいのです。仮に 1 対 1 が抜けたとしても、前述したようにフォローが非常に速くコンタクトが強いので、シュートを打てる体勢を保つことは難しい。万が一フォローした 2 番目の DF を抜けたとしても、3 番目の DF が確実に潰しにくるので、普通に 1 対 1 で攻めることは、あまり利口な選択ではありません。1 対 1 が有効ではないと OF が次に考えるのは、複数で DF を崩そうとしますが、結論から言いますとこの戦法の方がベターです。特にボールが無いところの選手が DF の視野外から走り込むことが有効的です。

3-2-1DF の隊形に OF が一人走り込むと、DF は 2 つに 1 つの隊形になることがほとんどです。1 つはトップがセンター付近で OF のボール回しを遮断し、2 枚目 DF と連携をとりながらフォローするゾーンと言われる隊形。2 つ目は、1 人の OF が走り込んだと同時に片方のフローターをマンツーマンで守り、下 5 人の DF は一線で守るか、4-2DF の隊形になるオムオムといわれるシステムです。どの隊形に変化するかは状況に応じて異なります。例えば相手チームのオフェンスに強力なエース（アタッカー）がいれば、オムオムシステムの方を選択するケースが多く、相手チームの OF が全体にバランスよく攻めてくる場合にはゾーンを採用するケースがほとんどです。

日本の指導と大きく違う部分は、相手 OF がシュートを打ちにきたら、いかなる場合でもコンタクトしないといけません。日本では OF シューターが遠くからシュートを打った場合、3 枚目 DF は後ろに飛んでシュートコースを遮断するケースが多いと思いますが、フランスでは体に当たること（コンタクトすること）がどんな場合でも必要とされます。また、余談ですが日本のチームでは、DF で 1 人少ない状態（DF5 対 OF6）のケースでは、シュート確率の悪いサイド側を選択し、角度を少しでも減らしてキーパーと勝負するという考えが一般的だと思いますが、フランスでは DF が 1 人少なくても、普段の 6 対 6 以上に運動量を増やして守るという考えが普通です。

オフェンスシステム

前節のディフェンスシステムで述べましたが、フランスでは 1 対 1 で体勢良く抜けるケースがほとんどありません。そこで攻撃は走り込んでのダブルポストになる攻めを多く起用しています。走り込みにも多くのパターンがあり、ボールがないところで選手が走り込んでプレーするケースが多いのですが、その走り込みもタイミングよく合わせることが重要です。また走り込んでポストに入った選手は、ポストの仕事を忠実にこなさなければなりません。さらに、全ての攻撃は、センターの指示によるセットプレーから始まります。ただ走り込むだけのセットプレーから、6 人全員がタイミングを合わせる複雑なセットプレーまでさまざまな種類がありますので、日本のチームよりもセットプレーの数は多くあります。僕たちチームを例に挙げていえば、左右で 50 ほどのセットプレーがあります。また対戦相手によって、多少は変化させたプレーを混ぜるので、それも含めれば膨大な数になります。しかし、セットプレーで全て決めるのが目的ではなく、あくまでも攻撃のひとつのきっかけと捉えているようです。そのため、セットプレーの始まり方は決まっているものの、後は個々の選手による判断でプレーが変化します。従って、攻撃では展開に合わせた判断力も大切であり、臨機応変に対応できなければなりません。

また、意外に思われる方も多いかと思いますが、フランスではパスの精度がとても悪いのです。もちろん代表選手クラスになれば、すばらしいパスを出す選手も多いのですが、一般的には日本人選手よりパスは下手です。ただ、彼らはパスの精度が悪いから起こるキャッチミスに対しての対応が非常に速い。俗に言う、考えるスピードが速いので、なにか予想外の出来事が起きても、すばらしく速く適切な対応がでるのでしょうか。日本人選手は「考えるスピードが遅い」と、元サッカーブラジル代表キャプテンのドゥンガが言っていましたが、フランスでプレーして見ると、明らかにその差を感じます。この問題は後のトレーニングの項で述べますが、やはり選手は普段のトレーニングから、「考えてプレーする」、「考えてトレーニングや試合に取り組む」ことが大切ではないかと思われます。

（以下次号に掲載致します）



2004／2005 日本ハンドボールリーグ開幕

日本ハンドボールリーグ委員会委員長　川上憲太（財日本協会常務理事）

第29回日本ハンドボールリーグが、いよいよ９月18日に開幕します。
３月20日のプレーオフ決勝に向けて、男子１部７チーム、女子１部５チーム、
男子２部５チームが３回戦総当たりでレギュラーシーズンが全国各地で繰り広げられます。

オールスターゲーム：熊本（山鹿市）で開催

今年３月（周南市）に続いて今シーズンは既に、７月11日に山鹿市、熊本県協会等の絶大なるご協力により、女子世界選手権壮行試合と併せて男子オールスター戦を開催致しました。会場は観客2500人の超満員となり、盛大な開催となりました。今後のオールスターの日程につきましては、その主旨を考慮し、十分検討していきたいと思います。

第１回東アジアクラブ選手権に出場

今年４月13日から15日、第１回の東アジアクラブ選手権が韓国（ソンナム）行われ、第28回大会で優勝したホンダ、広島メイプルレッズが出場しました。来年は中国、次は日本開催の予定です。本大会はアジアハンドボール界正常化の一貫として東アジア連盟が設立されたのをきっかけに開催されることになった大会です。今後の東アジア地域ハンドボール界の交流発展に寄与するものと期待しております。

日本リーグの課題への取り組み

現在、日本ハンドボールリーグは他競技のトップリーグと同様厳しい社会情勢と価値観の変動の中で厳しい状況下に置かれています。既に皆様周知のことではありますが、日本協会、トップリーグ、リーグ委員会、チームオーナー、部長、監督そして選手、サポーター他、一丸となっての地道な努力が必要です。そこで、誌面の関係から項目のみにさせていただきますが、現在日本リーグが取り組んでいる事項について列挙させていただきます。

①観客動員対策（リーグ全体、各チーム、地域支援）
②リーグ活性化対策（主にチームによる小学生チーム増大対策）
③財政対策
・トップリーグ支援助成金の活用（本年２年目、残り３年）
・マーケティング部門の確立（収入源の確保）
・長期財政計画（助成金に依存しない財政確立）
④ハンドボールフォーラム開催（９月５日予定）
・チームマネージメント・シンポジウム
・ゼネラルマネージャー制の定着に向けて
⑤チャレンジリーグの開催
本年は女子に重点（リーグ４チーム、学生４チームによるリーグ戦）
９月４日～６日、東京女子体育大学体育館にて開催。
⑥サマーキャンプ（ＮＴＳ連携事業：東京・新潟）
⑦オーナー会議の充実
⑧第30回大会記念事業の検討（来期は30回記念の年）
⑨広報の充実、拡大
⑩トップリーグ連絡協議会（現在球技系トップリーグ７競技８団体で発足準備中）

以上、項目のみとなりましたが、皆様方のご意見、ご声援を頂きたくよろしくお願い申し上げます。
今年も「熱い日本リーグ」に皆様のご声援をお願い致します。

第29回日本ハンドボールリーグ
レギュラーシーズン日程表 （第1週～8週）

週	月　日	開催地都道府県	会　　場	1部男子		1部女子		2部男子	
				時　間	組　合　せ	時　間	組　合　せ	時　間	組　合　せ
1	9月18日(土)	東　京	府中市立総合体育館					18:40～	HC東京×豊田合成
		福　井	北陸電力福井体育館フレア					14:00～	北陸電力×大阪ガス
		広　島	東区スポーツセンター	14:40～	湧永製薬×トヨタ車体	13:00～	広島メイプルレッズ×HC名古屋		
		山　口	周南市総合スポーツセンター	12:00～	ホンダ×アラコ九州				
				15:00～	大同特殊鋼×ホンダ熊本				
		熊　本	山鹿市総合体育館			17:30～	オムロン×ソニーセミコンダクタ九州		
	9月19日(日)	広　島	東区スポーツセンター	13:00～	湧永製薬×ホンダ熊本				
		岡　山	岡山県体育館	13:00～	大同特殊鋼×大崎電気				
				15:00～	ホンダ×トヨタ車体				
2	9月25日(土)	岩　手	花巻市総合体育館	16:00～	ホンダ熊本×ホンダ				
				17:40～	大崎電気×湧永製薬				
		埼　玉	三郷市総合体育館	14:00～	アラコ九州×トヨタ車体			12:00～	HC東京×トヨタ自動車
		鹿児島	国分市総合体育館			13:00～	ソニーセミコンダクタ九州×広島メイプルレッズ		
	9月26日(日)	宮　城	大和町総合体育館	13:30～	湧永製薬×アラコ九州				
				15:00～	ホンダ熊本×大崎電気				
		山　梨	小瀬スポーツ公園体育館	14:00～	大同特殊鋼×トヨタ車体				
		愛　知	ブラザー工業体育館			14:00～	HC名古屋×北國銀行	12:00～	豊田合成×北陸電力
3	10月2日(土)	石　川	金沢市総合体育館			13:00～	北國銀行×ソニーセミコンダクタ九州		
		愛　知	知立市福祉体育館	12:30～	大同特殊鋼×アラコ九州				
				14:30～	トヨタ車体×大崎電気				
		兵　庫	大阪ガス今津総合グランド体育館					15:30～	大阪ガス×HC東京
	10月3日(日)	愛　知	中村スポーツセンター	13:00～	大崎電気×ホンダ				
				15:00～	大同特殊鋼×湧永製薬				
			豊田合成㈱健康管理センター	13:30～	ホンダ熊本×アラコ九州	15:30～	HC名古屋×オムロン	11:30～	豊田合成×トヨタ自動車
4	10月9日(土)	福　井	北陸電力福井体育館フレア					14:00～	北陸電力×トヨタ自動車
		愛　知	刈谷市体育館	15:00～	トヨタ車体×ホンダ熊本				
		兵　庫	大阪ガス今津総合グランド体育館					15:00～	大阪ガス×豊田合成
		奈　良	生駒市市民体育館	13:00～	大崎電気×アラコ九州				
				15:00～	ホンダ×大同特殊鋼				
		広　島	佐伯区スポーツセンター			13:00～	広島メイプルレッズ×北國銀行		
	10月11日(月)	三　重	四日市市中央緑地体育館	12:00～	アラコ九州×大同特殊鋼				
				14:00～	ホンダ×湧永製薬				
5	10月16日(土)	三　重	四日市市中央緑地体育館	17:00～	ホンダ×アラコ九州				
		宮　崎	小林市市民体育館	18:30～	トヨタ車体×湧永製薬				
		沖　縄	浦添市民体育館	13:00～	ホンダ熊本×大同特殊鋼	15:00～	オムロン×北國銀行		
6	11月3日(水)	埼　玉	三郷市総合体育館	15:00～	大崎電気×大同特殊鋼			13:00～	HC東京×北陸電力
		愛　知	半田市体育館	14:30～	トヨタ車体×ホンダ	12:15～	HC名古屋×ソニーセミコンダクタ九州	10:00～	トヨタ自動車×大阪ガス
		熊　本	山鹿市総合体育館	13:00～	ホンダ熊本×湧永製薬	14:40～	オムロン×広島メイプルレッズ		
	11月6日(土)	埼　玉	八潮市立鶴ヶ曽根体育館	14:00～	大崎電気×ホンダ熊本				
		兵　庫	大阪ガス今津総合グランド体育館					15:00～	大阪ガス×北陸電力
		鹿児島	ソニーセミコンダクタ九州㈱体育館			13:00～	ソニーセミコンダクタ九州×オムロン		
	11月7日(日)	愛　知	豊田合成㈱健康管理センター					15:00～	豊田合成×HC東京
		大　分	大分県立総合体育館	14:20～	大同特殊鋼×トヨタ車体	12:30～	HC名古屋×広島メイプルレッズ		
7	11月10日(水)	三　重	本田技研健保体育館	18:00～	ホンダ×ホンダ熊本				
	11月11日(木)	広　島	湧永満之記念体育館	18:00～	湧永製薬×大崎電気				
	11月13日(土)	福　井	北陸電力福井体育館フレア					14:00～	北陸電力×豊田合成
		愛　知	三好公園総合体育館					13:00～	トヨタ自動車×HC東京
		佐　賀	神埼中央公園体育館	15:00～	アラコ九州×ホンダ熊本				
	11月14日(日)	石　川	小松総合体育館	15:00～	大崎電気×トヨタ車体	17:00～	北國銀行×HC名古屋		
		広　島	東区スポーツセンター	14:40～	湧永製薬×ホンダ	13:00～	広島メイプルレッズ×ソニーセミコンダクタ九州		
8	11月20日(土)	富　山	氷見市ふれあいスポーツセンター	14:00～	ホンダ×大崎電気				
		愛　知	知立市福祉体育館	14:30～	トヨタ車体×アラコ九州			12:30～	トヨタ自動車×豊田合成
		熊　本	山鹿市総合体育館			13:00～	オムロン×HC名古屋		
		鹿児島	国分市総合体育館			13:00～	ソニーセミコンダクタ九州×北國銀行		
	11月21日(日)	東　京	駒沢屋内球技場					16:00～	HC東京×大阪ガス

◎JHLホームページにチーム情報、全日程、会場案内を掲載しています。

http://www.jhl.handball.jp/

http://www.jhl.handball.jp/i/（i-mode対応用）

日本代表選手(U-23,19,16)名簿(候補)

日本代表男子 U-23 選手名簿(候補)

平成16年6月現在

役　職	氏　名	所属先
監　督	松井　幸嗣	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	矢内　浩	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	田村　修治	(財)日本ハンドボール協会

	氏　名	所属先名	出身校
GK	川床　充弘	日本体育大学	桃山学院高校
	志水　孝行	大阪体育大学	瓊浦高校
	谷地　敏彦	中央大学	不来方高校
	久保宮　大	大同工業大学	伊奈高校
CP	小野　誠嗣	大阪体育大学	久留米工大付高校
	安藤　聡	大阪体育大学	香川中央高校
	藤田　聖史	中部大学	国分高校
	東長濱　秀作	日本体育大学	興南高校
	地引　貴志	日本体育大学	伊奈高校
	山田　真太郎	日本体育大学	学法石川高校
	小林　宏匡	日本体育大学	大分国際情報高校
	岩永　生	筑波大学	瓊浦高校
	渡久川　兼太	日本体育大学	那覇西高校
	中山　亮	日本体育大学	伊奈高校
	武田　享	国士舘大学	東根工業高校
	富田　恭介	中部大学	富岡高校
	嘉古田　奨吾	日本体育大学	千原台高校
	中畠　嘉之	福岡大学	岩国工業高校
	岡田　健	日本体育大学	興南高校
	大房　哲也	日本体育大学	高岡向陵高校
	草原　智也	大同工業大学	高岡向陵高校
	兼本　浩誉	桃山学院大学	桃山学院高校
	門山　哲也	日本大学	市立浦和高校
	武藤　剛	日本体育大学	横浜商工高校

日本代表女子 U-23 選手名簿(候補)

平成16年6月現在

役　職	氏　名	所属先
監　督	池田　修	(財)日本ハンドボール協会
コーチ	三輪　一義	琉球大学

	氏　名	所属先名	出身校
GK	竹鼻　瑶子	筑波大学	盛岡第二高校
	木澤　尚子	日本体育大学	初芝橋本高校
	矢野　佳代	武庫川女子大学	今治南高校
CP	吉田　祥子	オムロン	東京女子体育大学
	樋口　真央	筑波大学	桜花学園高校
	久野　葵	東京女子体育大学	文大杉並高校
	今井　綾	東京女子体育大学	桜花学園高校
	安西　千尋	東京女子体育大学	浦和実業高校
	五月女　美代	東京女子体育大学	埼玉栄高校
	藤井　紫緒	東京女子体育大学	宣真高校
	大津　由香利	日本体育大学	大分鶴崎高校
	高野　敬子	武庫川女子大学	熊本市立高校
	城内　真紀	武庫川女子大学	初芝橋本高校
	伊藤　亜衣美	武庫川女子大学	暁高校
	稲垣　暁恵	大阪教育大学	宣真高校
	上原　末子	福岡教育大学	浦添高校
	池田　まり子	福岡教育大学	筑紫女学園高校
	伊藤　瞳	福岡教育大学	大分鶴崎高校

※前号、今月号に掲載しました候補者名簿とは、日本代表選手と同じ扱いです。これらの中から、また新たなメンバーが合宿、合同練習会に招集され、大会エントリーメンバーが決定します。

日本代表男子 U-19 選手名簿（候補）

平成16年6月現在

役職	氏名	所属先
監督	玉村　健次	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	大房　重則	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	滝川　一徳	茨城県立藤代紫水高校

	氏名	所属先名	出身校
GK	東　直明	日本体育大学	千原台高校
	谷井　清二	大阪体育大学	岡山理大付属高校
CP	吉田　哲	筑波大学	瓊浦高校
	岸川　英誉	早稲田大学	國學院栃木高校
	海道　衛秀	筑波大学	氷見高校
	服部　広幸	中部大学	大垣工業高校
	宮島　竜二	函館大学	高岡向陵高校
	雲井　朋幸	大同工業大学	桑名工業高校
	西山　尚良	大阪体育大学	洛北高校
	今井　昭仁	福岡大学	久留米工大付属高校
	藤本　拓	日本体育大学	岩国工業高校
	前里　卓美	早稲田大学	興南高校
	銘苅　淳	筑波大学	那覇西高校
	染谷　雄輝	伊奈高校	けやき台中学
	小川　雄也	伊奈高校	けやき台中学
	棚原　良	興南高校	仲西中学
	景山　優作	日本体育大学	大分国際情報高校
	澤本　憲宏	大阪体育大学	此花学院高校
	信太　冨樹雄	国士舘大学	伊奈高校
	栗崎　純一	日本体育大学	九州産業高校

日本代表女子 U-19 選手名簿（候補）

平成16年6月現在

役職	氏名	所属先
団長	大西　武三	㈶日本ハンドボール協会
監督	堀田　敬章	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	小林　寛二	金津高校
コーチ	北野　香代	九州女子短大
ドクター	甲斐　功一	井上病院
トレーナー	陣上　修一	熊本赤十字病院

	氏名	所属先名	出身校
GK	久染　亜衣	大阪教育大学	香川中央高校
	下地　ゆいの	筑波大学	那覇西高校
CP	棚原　ジェイミ	オムロン	北谷高校
	細木　久未	オムロン	夙川学院高校
	野路　里子	北國銀行	福井商業高校
	吉田　薫	武庫川女子大学	夙川学院高校
	横嶋　かおる	北國銀行	高岡向陵高校
	由田　千草	茨城大学	小松市立高校
	山下　詩穂	筑波大学	小松市立高校
	高橋　恵	桜花学園高校	鹿骨中学校
	内平　亜希	小松市立高校	額中学校
	小松　史果	熊本国府高校	都呂々中学校
	荒木　佳子	暁高校	四日市市立笹川中学校
	石立　真悠子	小松市立高校	明倫中学校
	山下　裕美子	桜花学園高校	上中学校
	大城　夕貴	浦添高校	仲西中学校

日本代表男子 U-16 選手名簿（候補）

平成16年6月現在

役職	氏名	所属先
監督	佐々木　英明	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	逢坂　静男	大阪体育大附中学校
コーチ	今井　敬太	市立井吹台中学校
コーチ	加藤　益弘	区立葛西第三中学校

	氏名	所属先名	出身校
GK	大嶋　誉志央	北陸高校	光陽中学
	久保　侑生	大分国際情報	明野中学
	玉城　聖也	興南高校	神森中学
CP	高久　善光	浦和学院高校	湯沢南中学
	加藤　順也	盛岡第一高校	黒石野中学
	斎藤　英樹	学法石川高校	本宮第一中学
	大山　天靖	藤代紫水高校	けやき台中学
	多和田　祐介	岡崎城西高校	八幡中学
	小林　健	岡崎城西高校	中山中学
	時村　浩幹	小松明峰高校	御幸中学
	連　基徳	上宮高校	大体大附中学
	岩下　幸司	此花学院高校	豊中十三中学
	前里　亮太	興南高校	仲西中学
	砂川　慶成	興南高校	神森中学
	上原　健治	興南高校	神森中学
	比嘉　竜太	興南高校	浦西中学

日本代表女子 U-16 選手名簿（候補）

平成16年6月現在

役職	氏名	所属先
団長	新垣　健	㈶日本ハンドボール協会
監督	東江　正作	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	石塚　廣一	吉川市立中央中学校
コーチ	細津　誠	春日部市立大増中学校

	氏名	所属先名	出身校
GK	平良　彩乃	神森中	—
	亟々　知佳	夙川高校	大久保北中学
CP	林　志帆	夙川高校	川名中学
	渡久山　千裕	那覇西高校	浦西中学
	座間味　由喜	那覇西高校	浦添中学
	平安山　静華	陽明高校	浦西中学
	上地　絵理	那覇西高校	浦添中学
	下地　まいの	那覇西高校	仲西中学
	中池　翠	松橋高校	住吉中学
	佐藤　友利恵	熊本国府高校	松橋中学
	山上　麻美	洛北高校	住吉中学
	山野　由美子	小松市立高校	浅野川中学
	石野　実加子	氷見高校	氷見南中学
	樽井　沙織	大増中学	—
	鳥飼　翠	富岡東高校	富岡南中学
	町屋　なつみ	不来方高校	城西中学



平成16年度6月常務理事会

日　時：平成16年6月5日（土）
場　所：青山メトロ会館
出席者：山下副会長、大西専務理事、常務理事7名、監事2名、事務局4名

審議事項

1. 規程集について

平岡常務理事より、規程集の項目が示され日本協会、日本協会委員会規程の順に並び替えを行ったことが述べられた。併せて、倫理規程（案）、表彰規程（案）が示された。

大きな国際大会を開催した地方協会を表彰できるような文章を入れる。文章については平岡常務理事に一任。

表彰規程に関しては村松参事を中心にさらに検討を行う。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2. 平成15年度事業報告書（案）について

資料により、各担当常務理事から事業についての報告がなされた。

ヒロシマ国際の中止理由（SARS）を明記する。

女子強化関係でブラザーを会場に使用していることに対し敬意を表し、併せてチーム復活に向けて働きかける。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3. 平成16年度予算一次補正（一部修正案）について

資料により平成16年度事業予算・第一次補正予算（案）が示された。

物品売り上げ収入の下方修正などを行ったことについて説明があった。

オリンピックプロジェクトの具体的方針、組織化を早急に図る。これをもとに協賛企業巡りも早急にはじめる。これについて、会長・副会長打ち合わせを6月中に行う。

登録金値上げに向けての具体的活動を早急にはじめる。

ナショナル選手の日当については、企業に所属しない選手についてを念頭に置いて案を緒方常務理事が作成する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4. ビーチハンドボール選手権（アジア・世界）

資料により、アジア女子ビーチハンドボール大会（富浦町）の中止及び世界選手権のアジア代表が日本であるとアジア連盟から連絡があったことが江成常務理事から報告された。なお、香港から対戦を望む場合は招待試合とし、AHF大会としては開催しない。また、日本代表チームの世界選手権出場は自費参加とし、激励金〈秋田WCに準ずる〉を支出する。代表チームはそれにふさわしいメンバーとし、選手名簿を提出してもらう。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5. マカオ東アジア大会について（2005/10/29－11/6）

資料により韓国からのマカオ東アジア大会ハンドボール競技の代替え大会開催の開催共同要請の文書が示された。現時点でEAHFに年間2回の大会を開催する余力はないので日本協会として賛成しない。次回EAHFの会議に於いてこのことを議題とすることには問題ない。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6. その他

ヒロシマ国際における日本協会からの競技委員長を早急に決定する。

ヒロシマ国際における広告協賛企業を早急に募る。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1. 平成15年度決算書（監事・会計士監査）

資料により監査証明書、独立監査人の監査報告書が示された。

2. 平成16年度日本協会組織図について

資料により平成16年度組織図が示された。

蒲生参事を理事とすることを理事会に諮る。

村松参事を表彰担当とする。

3. 諸会議日程

資料により平成16年度会議日程が示された。

IHF総会には市原副会長、国際委員栗山氏が参加する。

4. 平成15年度日本協会表彰について

平成15年度日本ハンドボール協会表彰の都道府県協会推薦の21名の名簿が示され、理事会に推薦する。

日本協会内部で表彰を行う場合は役員を退任した場合に行う。

5. 平成17年度叙勲及び褒章候補者推薦について

資料により叙勲及び褒賞候補者選考基準が示され、日本協会として推薦者を選定する。

6. ムササビ・プラクティスTシャツについて

全ての在庫をモルテン倉庫に移した。在庫の早期販売を進める。

7. 日本協会関連商品企画・生産・販売について

資料によりヘンプジャパン株式会社アクティブスポーツの文書が示された。川上常務理事、兼子事務局長が面談、企業内容、日本協会メリット等を聴取し再度検討する。

8. NTSついて

資料により2004基本方針が示された。

9. JHL・サマーキャンプ開催要項

資料により上記行事の要項が示された。

10. 女性委員会活動

資料により2004活動計画書（案）、実施計画書（案）が示された。

11. 各種国際大会試合日程

資料により女子世界選手権アジア予選（ヒロシマ国際）、男子アルアラーム国際大会（エジプト）、男女Jrの世界選手権アジア予選の日程が示された。

12. オリンピックプロジェクト（継続審議）

強化方針、財務的裏付けを更に具体化させ、次回までに緒方常務理事が完成させ提出する。

13. トップレフェリー研修会(ヒロシマ国際時)

資料により平成16年度トップレフェリー研修会（ヒロシマ国際開催時）の要項が示された。

14. 10万人会

資料によりサポート会会員都道府県別総数表が示された。併せて、都道府県協会宛会推進の依頼状と、募集案内、申し込み表が示された。

15. 登録制度プロジェクト

登録について今年度中に案をまとめ、来年度から実施の方向で検討する。

16. 第7回ハンドボール研究集会

文書により平成16年度第7回ハンドボール研究集会の要項が示された。

17. ドッジボール協会連携について

資料により、2004学生ドッジボールフェスタに日本協会として後援し、関東学生ハンドボール連盟が協力する。

18. アジア女子選手権（ヒロシマ国際）大会日程

上記大会の開催要項が資料により示された。

19. スポーツ団体トップリーグ運営助成

平成16年度のスポーツ団体トップリーグ運営助成活動の一覧表が示された。内容は、マネジメント機能強化、研修会開催（チームマネジメント・シンポジウム）、トップリーグ開催（第29回日本リーグの開催）、トップリーグ活性化活動（東アジアクラブ選手権チーム派遣、サマーキャンプ実施、オールスター戦開催、チャレンジリーグ開催）。

20. 男子オールスター戦・アジア女子選手権壮行試合について

上記大会日程が示された。

21. 第1回東アジアクラブ大会報告

文書により、報告書が提出された。

平成16年第1回理事会

日　時：平成16年6月5日（土）
場　所：青山メトロ会館

出席者：山下副会長、大西専務理事、常務理事７名、理事６名、法定理事 19 名中会諸出席 15 名、委任状提出者４名、監事３名、参事 13 名、事務局４名

●議長に山下副会長が選出された。

世の中はアテネに向かっているが、我々ハンドボール界は北京出場に向けて全力を傾ける。今回の理事会では蒲生参事を理事に推薦、村松参事を表彰担当とする旨述べられた。

●寄附行為第 26 条の規程による定足数を満たしているので本理事会は有効に成立している旨報告があった。

●大西専務理事から、理事会の位置づけ役割が述べられ、議事が進められた。

審議事項

1. 規程集について

平岡常務理事より、規程集の項目が示され日本協会、日本協会委員会規程の順に並び替えを行ったことが述べられた。併せて、倫理規程（案）、表彰規程（案）が示された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2. 平成 15 年度事業報告書（案）について

資料により、各担当常務理事から事業についての報告が成された。

ヒロシマ国際の中止理由は SARS であることが補足説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3. 平成 16 年度予算一次補正（一部修正案）について

資料により平成 16 年度事業予算・第一次補正予算（案）が示された。

殿水監事から監査の説明がなされた。

大会助成金のリストを次回より提出する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4. ビーチハンドボール選手権（アジア・世界）

資料により、アジア女子ビーチハンドボール（富浦町）の中止通告がアジア連盟からあったことが江成常務理事から報告された。

世界選手権への出場権は日本にあり、香港から対戦を望む場合は招待試合とし AHF 大会は開催しない。

代表チームは世界選手権大会に自費参加とし、激励金（秋田 WC に準ずる）を支出する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5. マカオ東アジア大会について（2005/10/29 − 11/6）

韓国からのマカオ東アジア大会ハンドボール競技の代替え大会開催が提案されたが、実施に賛成しない。山下副会長からモンゴルでの海外青年協力隊活動が報告され、今後も海外協力を推進する必要性が述べられた

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1. 平成 15 年度決算書（監事・会計士監査）

資料により監査証明書、独立監査人の監査報告書が示された。

2. 平成 16 年度日本協会組織図について

資料により平成16年度組織図が示された。蒲生参事を理事とすることを評議委員会に諮る。村松参事を表彰担当とする。山本一氏をアジア大会担当参事とする。新事務局体制（兼子事務局長、茂木局次長等）の説明がなされた。

3. 諸会議日程

資料により平成 16 年度会議日程が示された。

平成 16 年度第２回評議委員会（2/5）、第３回理事会（2/19）と例年と開催順が異なる。

4. 平成 15 年度日本協会表彰について

平成 15 年度日本ハンドボール表彰の都道府県協会推薦の 21 名の名簿が示され承認された。

5. 平成 17 年度叙勲及び褒章候補者推薦について

資料により叙勲及び褒賞候補者選考基準が示され、日本協会として推薦者を選定することが承認された。

6. ムササビ・プラクティス T シャツについて

全ての在庫をモルテン倉庫に移したことが報告された。在庫の早期消却について依頼がなされた。

7. 日本協会関連商品企画・生産・販売について

資料が示された。

8. NTS について

資料により 2004 基本方針が示された。

9. NTS サマーキャンプ開催要項

資料により上記行事の要項の説明が蒲生理事よりなされた。NTS 助成金の振り込みについて担当者と地方協会が連絡を密にするよう指導する。

10. 女性委員会活動

資料により 2004 活動計画書（案）、実施計画書（案）が示され、上原参事より説明がなされた。平成 16 年度の予算は普及部より支出する。

11. 各種国際大会試合日程

資料により女子世界選手権アジア予選（ヒロシマ国際）、男子アルアラーム国際大会（エジプト）、男女 Jr の世界選手権アジア予選の日程が示された。

12. オリンピックプロジェクト

強化方針、財務的裏付けを更に具体化させる。

13. トップレフェリー研修会（ヒロシマ国際時）

資料により平成 16 年度トップレフェリー研修会（ヒロシマ国際開催時）の要項が示された。

14. 10 万人会

資料によりサポート会会員都道府県別総数表が示された。併せて、都道府県協会宛会推進の依頼状と、募集案内、申し込み表が示され更なる協力依頼がなされた。連盟関係の加入者メリットについては現在検討中。

15. 登録制度プロジェクト

登録について今年度中に案をまとめ、来年度から実施の方向で検討する。

16. 第７回ハンドボール研究集会

文書により平成 16 年度第７回ハンドボール研究集会の要項が示された。小学生研究については機関誌を通して中間報告を行う。

17. ドッジボール協会連携について

資料により、2004 学生ドッジボールフェスタに協会として後援し、関東学生ハンドボール連盟が協力する。福地理事より説明がなされた。

18. アジア女子選手権〈ヒロシマ国際〉大会日程

上記大会の開催要項が資料により示され、江成常務理事より説明がなされた。

19. スポーツ団体トップリーグ運営助成

平成 16 年度のスポーツ団体トップリーグ運営助成活動の一覧表が示された。内容は、マネジメント機能強化、研修会開催（チームマネジメント・シンポジウム）、トップリーグ開催（第 29 回日本リーグの開催）、トップリーグ活性化活動（東アジアクラブ選手権チーム派遣、サマーキャンプ実施、オールスター戦開催、チャレンジリーグ開催）。

20. 男子オールスター戦・アジア女子選手権壮行試合について

上記大会日程が示された。

21. 第１回東アジアクラブ大会報告

文書により、報告書が提出された。

22. その他

佐分参事より、高校選抜の神奈川開催について都会で行う大会の現状が述べられた。

本間参事からビーチの登録金は、大会参加費の中から日本協会宛納入している旨説明がなされ、確認された。

指導者資格の 2007 年からの認定改正について改めて連絡することが笹倉参事より述べられた。

葦原理事より熊本県全国大会 100 回優勝祝賀会への山下副会長出席への礼が述べられ、機関誌紙面を通して詳細報告を行う旨述べられた。

大川理事より遠藤氏（埼玉県）の叙勲報告がなされた。

森安理事（岡山）より国体リハーサル大会への協力が述べられた。

越智武様より寄付金を戴いたことが報告された。

大野監事より、大会予算が厳しい中、金をかければ強くなり、普及するのではないことが述べられ、更なる工夫と努力の重要性が述べられた。苦しいならば、苦しいなりの手があることが述べられ閉会する。

平成 16 年度 6 月
臨時常務理事会

日　時：平成 16 年 6 月 19 日（土）
場　所：日本青年館
出席者：山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事 6 名、監事 1 名、事務局 4 名

●大西専務理事より、臨時常務理事会招集の議題が示された。アジア女子ビーチハンドボール選手権（代表決定戦）に関する事項。江成競技担当常務理事、平岡国際担当常務理事とは事前に審議してあり、直接の担当は角常務理事であるが常務理事会で全員の意見を聴取、審議する必要があり、決定する。

審議事項

1. アジア女子ビーチハンドボール選手権（代表決定戦）

※大西専務理事から資料により以下のような説明がなされた。

香港は大会開催を希望しており、アジア連盟から開催要請（文書ではない）がきている。以前のアジア連盟の通達では、世界大会出場権は日本にあり、香港はリザーブ、大会中止の連絡があった。しかしながら、香港協会からアジア連盟宛に異議申し立てがなされており、日本開催がなされない場合香港開催の用意を伝えている。

東アジアの結束を強めようとしている現在開催要請を受け入れた方がよいのではないか。また、日本選手団にとっても自国開催の意味は大きい。しかしながら、富浦町では前回の中止決定で町からの補助金がキャンセルされており財政的基盤が無く、砂浜の使用に関しても事前調整が必要であるという。

広島でのアジア選手権後、国内で開催してはいかがであろうか。

※山下副会長から以下のような発言がなされた。

広島で開催できればベストであるが、広島の砂浜は全て島で使用できない。他で検討できないだろうか。

※市原副会長から以下のような発言がなされた。

今、日本はアジアの結束を呼びかけている。香港は締め切り前にエントリーしているし、世界選手権予選であれば 2 チームであっても開催しなければならない。富浦町が無理であれば、和歌山や、お台場海岸で調整できないか。

※山下副会長から以下のような発言がなされた。

お金やスタッフの面から考えれば富浦町がベストである。千葉であればぼ、AHF 役員、レフェリーの移動もしやすく、香港チームも成田から直接現地に入れる。

以下のような結論がなされた。

江成常務理事が中心となり、富浦町、和歌山、お台場海岸を候補に本間参事と検討し決定する。大会は日本で開催する。

開催意向は早急に平岡常務理事がアジア連盟に行う。

以下の点を AHF に確認する。今回の事態が生じた理由。大会開催ルールの確認。選手権であればエントリー 4 カ国以上が開催条件であるが、出場権争いであればたとえ 2 カ国であっても開催すべきである。

すでに確認済みであるが、ビーチ選手権への AHF 役員は広島からの移動で最小限とし、レフェリーも同様とすることの確認日程は早急に決定する必要があるが、広島からの移動を考え、7 月 27 日を第一候補とする。

全員一致で、了承された。

2. その他

平成 18 年度第 1 回評議委員会議事進行について。

議事の説明は大西専務理事が行い、必要に応じて担当常務理事が補足を行う。

大西専務理事より、国体の少年を NTS の大会と位置づけ、単独チームでなく県の選抜チームとしてはどうかと発言がなされた。評議委員会でも提案し、多くの意見を聞く。

全員一致で、了承された。

平成 16 年度第 1 回評議員会

日　時：平成 16 年 6 月 19 日（土）
場　所：日本青年館
出席者：評議員 53 名中 33 名出席、書面委任状 20 名にて 2 ／ 3 以上の出席で会議は成立。

●議長に山下副会長が選出された。

●山下副会長より以下のような挨拶がなされた。

世はアテネ、アテネと賑わっているが、ハンドボール競技は昨年 9 月の予選で 1 点差に泣き出場権が得られなかった。出ると出ないとでは大違いと改めて感じる。次の北京には必ず出なければならない。

●市原副会長から以下のような JOC 報告がなされた。

アテネまで 2 ケ月を切りました。テコンドー、女子マラソン選手選考問題等いろいろあり、また長嶋茂雄監督も 7/13 東京ドームでの壮行試合対キューバ戦までには回復できるようリハビリをされています。アテネオリンピックは 28 競技 301 種目で熱戦が展開されますが、残念ながら日本はハンドボールと近代五種が加わっておらず 26 競技の参加です。日本選手団の規模は海外オリンピック過去最高のアトランタの 499 名を抜き 510 名程度になると思われます。今回の特徴は、女性の台頭が目立ち 6 割が女性になります。2001 年 5 月に発足した JOC ゴールドプランの責任者としてアテネでは 25 個前後のメダルが取れるよう期待しています。今後、益々スポーツを必要とする社会になると思われますので、皆んなでスポーツ振興に努めなければなりません。ご協力をお願い致します。

審議事項

1. 平成 15 年度事業報告書

資料により大西専務理事より簡潔に説明がなされた。

拍手をもち全員一致で、了承された。

2. 平成 16 年度決算書

事前配付された資料を用い、松原常務理事より説明がなされた。竹野監事より 6 月 4 日、監事 3 名の立ち会いで監査を行い適性であったことの報告がなされた。

拍手をもち全員一致で、了承された。

3. 平成 16 年度第一次補正予算

資料により、松原常務理事より説明がなされた。

拍手をもち全員一致で、了承された。

4. 新理事選任の件

蒲生晴明氏（現参事）を理事に推薦する旨、大西専務理事よる説明、推薦がなされた。

拍手をもち全員一致で、選任された。

報告事項

1. プロジェクト 21 について

資料により、大西専務理事より次のような説明がなされた。

3 つの目標（オリンピックに常時出場しメダルを獲得できる実力、2010 年にハンドボール人口を日本で 3 位に、ハンドボール協会が人・物・金で自立化）を機能的に作用させることが大切。そのために高校生の NTS 強化が不可欠であり、国体の少年の部と NTS との関連を考えて行きたい。

強化に関して緒方常務理事より短期目標、長期目標の説明がなされた。

地域振興プロジェクトについて角常務理事より説明がなされた。

2. 平成 16 年度日本協会組織図について

上記組織図について大西専務理事よる説明がなされた。

兼子新事務局長が紹介され、本人より挨拶がなされた。

兼子事務局長より、今後旅費の振り込みは事後とすることの説明がなされた。

3. 平成 16 年度会議日程について

資料により平成 16 年度の会議日程の説明が大西専務理事よりなされた。

例年と変わり、評議委員会は理事会の前に開催する。これは評議委員会の主な役割の一つに理事の選任があり、後の作業をスムースに進行させるためである。

4. 登録について

登録制度に関しての問題点を整理するための作業部会として、江成常務理事を長とする「登録制度プロジェクトチーム」を立ち上げた。今後値上げを含み検討を進め、多くの人から意見を聞く機会を設けたい。

5. 強化に関する報告（強化日程、選手名簿）

緒方常務理事より、強化部組織、メンバー、今年度の各カテゴリーの代表チーム候補選手が示された。

6. 第9回ヒロシマ国際ハンドボール大会について

上記大会について江成常務理事より説明がなされた。山下副会長から成功、観客動員協力へのお願いがなされた。

7. NTS2004・JHL サマーキャンプについて

角常務理事より説明がなされた。財政難であり、参加者に多少負担がかかることへの理解が述べられた。

8. 平成16年度第7回ハンドボール研究集会について

角常務理事より資料を用いて上記研究会が熊本で開催されることの説明がなされた。現在小学校の研究推進校で授業実践がなされていることの説明がなされた。

9. 平成16年度トップレフェリー研修会について

斎藤常務理事より上記研修会の説明がなされた。

10. 女性委員会活動について

角常務理事から上記委員会の説明がなされた。まだ、多少の協会で女性要員の選出がなされていないので早急に選任をお願いしたい。

11. 日本リーグ報告について

スポーツ団体トップリーグ助成事業について説明がなされた。

12.10万人会について

平岡常務理事より10万人会の現状と、今後さらに都道府県ファミリー会員、都道府県グループ会員への入会促進への協力が述べられた。

13. 第2回車椅子ハンドボール競技大会について

資料により説明がなされた。

14. その他

武田評議委員（北海道）より以下の4点について発言がなされた。

①功労者表彰についての規程を具体的に示して欲しい。

②日本協会からの補助金の流れを一本化して欲しい。

③評議委員会（2/5）の開催場所は早く知らせて欲しい。

④小学校への普及へ協力したいので、資料、情報の伝達をお願いしたい。

以上について

①平岡常務理事より表彰規程を提示する、②大西専務理事より補助金は都道府県協会事務局への振り込み一本化、③評議員会の開催会場は未定であるが東京開催、④角常務理事よりすでにパンフレット、IHF指導教材発行され、一貫指導DVDが近々発行される、等回答がなされた。

狩野評議委員（兵庫）より以下のような発言がなされた。

能力はあるがチームが全国大会へ出場できなかった高校生の受け皿を検討して欲しい。陸上のオリンピック代表の朝原選手は中学校までハンドボールをやっていたが、高校に部がなかったために陸上に転身した。素質のある選手がハンドボールを続けられるよう協会としても大学等と協議して欲しい。

大西専務理事より、徐々にNTSの認知度も上がり大学の推薦対象になってきていると回答がなされた。

村木評議員（愛知）より以下のような発言がなされた。

登録方法の改正ついては、本年10月までに提案がなされなければ地方協会では対応できない。役員登録に関しても検討をお願いしたい。

登録に関しては来年度より実施できるよう作業を進める旨大西専務理事より回答がなされた。

中川評議員（奈良）より以下のような発言がなされた。

3年前に個人登録費100円値上げの際にも言ったが、値上げ額の問題ではなく何故値上げが必要で、どう使うのか、今後5年間は値上げしない等の説明の方が大切。また、徴収する都道府県協会の手間を考えれば少しずつ、段階的値上げは困る。事情があるなら、高校生の個人登録を導入する事も検討すべき時ではないか。

十分検討する旨大西専務理事より回答がなされた。

井評議員（熊本）より以下のような発言がなされた。

新理事に就任した蒲生理事を盛り上げると共に、蒲生氏にはさらに力を発揮してもらいたい。熊本県全国大会100勝記念セレモニーのお礼、オールスター戦の成功のお願いがなされた。併せて、同大会がTV放送されることの報告がなされた。

後山評議員（富山）より以下のような発言がなされた。

日本協会として5年間の財務指標を出して欲しい。また、4年後の北京に向けた予算をたてるべきではないか。

山下副会長より以下のような回答がなされた。

今年度はtoto売り上げ減により配分の大幅削減、他補助金に関しても単年度であり長期の計画、予算を組むことは難しい。また、自主財源のみにすると更なる負担が地方協会にかかる。

冨田副会長より、本日は長時間に渡る審議に対するお礼、今後更なるハンドボール競技発展のための協力が述べられ閉会する。

平成16年度 第2回競技者育成技術委員会

日　時：平成16年7月17日（土）
場　所：代々木体育館会議室
出席者：角　紘昭、緒方嗣雄、斎藤　実、蒲生晴明、ほか計11名

●角担当常務理事より挨拶があり議事に入る。

議　題

1. 各部報告

1）緒方強化部長より、ナショナル各種別の大会成績、今後の予定について説明があった。

2）女子ジュニア、男子ナショナル世界選手権出場は、JOC内部でも注目されている、との報告があった。

3）田中GMより、ドッジボール協会連携について説明があった。

4）斎藤審判長より、アジア女子選手権（広島）時のトップレフェリー研修会内容について説明があった。

5）蒲生NTS委員長より、新NTSDVDについて実映像を交え説明があった。また、8月10、11日の新潟サマーキャンプについて視察結果が報告された。

6）角常務理事及び笹倉指導委員長より、ブロック少年チーム創設・整備会議内容と日程、U12用DVDの説明があった。

2. 各カテゴリーの指導内容について

2004NTS指導者用DVDについて内容の確認がなされた。

U12用DVDについては、これまでの過程の確認と今後の活用についての確認がなされた。

3. その他

1）それぞれDVD等の価格について下記のように設定され次回の常務理事会での承認を得る。

U16,19用DVD（インストラクター用）
…………………………… 3.000円
U16,19用DVD（選手用）…… 2.000円
U12用DVD ………………… 3.000円
NTS2000 ビデオ …………… 3.000円
NTS2002 ビデオ …………… 3.000円

2）本技術委員会のあり方について確認された。

・審議内容の明確化
・教材のチェック
・活動するための予算化

次回競技者育成技術委員会は、国体の頃（10月下旬）に開催することを確認し、閉会した。

次回は10月24日（日）14：00～16：00。

・八潮市立鶴ヶ曽根体育館（予定）

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」7月入会・継続会員

【北海道】畑中　裕、藤澤賢治【岩手】上川正二【宮城】千田文彦、加藤宏之【茨城】伊藤明美、岡本　大、出頭秀彦【埼玉】田中　孝【千葉】三井　信【東京】河内鋭雄、安藤純光【神奈川】加藤良一【山梨】平岡秀雄、天野盛夫、斉藤節子【富山】旅　文夫、旅　和子【福井】毛利真明【愛知】熊田祐子【三重】伊藤克己【岐阜】森川俊章【大阪】塩川正十郎、里村静俊、宮崎　寛、赤星　明、繁田順子、岸本　幟、土井秀和、白鳥貴子、戸谷克蔵、中務敏男、三好直樹【兵庫】千葉英之【奈良】木森啓至【山口】森田俊介、溝部弥三郎【香川】藤沢秋義【徳島】長尾輝夫【愛媛】栗田　亮【佐賀】高橋洋治【長崎】石井通義【熊本】上野信行、三角保之【鹿児島】井料たか子

【9月の行事予定】

9月4日（土）～5日（日）
第6回全日本ビーチハンドボール選手権大会
（千葉・富浦町原岡海岸）

9月7日（火）～18日（土）
第9回アジア男子ジュニア選手権（インド）

9月8日（水）～12日（日）
高松宮記念杯第45回全日本実業団選手権大会（高知県）

9月18日（土）～2005年3月6日（日）
第29回日本リーグ（各地）

HAND BALL　CONTENTS　Sep

2004/2005日本リーグ開幕 ……………………川上憲太　1
第10回アジア女子ハンドボール選手権大会……………… 2
　29年ぶりのアジアNo.1　女子初めてのアジアタイトル獲得
第8回アジア女子ジュニア選手権大会 …………………… 6
　みんなで勝ち取った世界選手権出場権
第1回アジア女子ビーチハンドボール選手権大会 …………10
　世界へ飛躍　勝ち取った市民スポーツの勇
連載45:NTS2004 DVD発売 ………………………………12
審判部便り：コンチネンタル・レフェリー誕生 ……………13
切手に見るハンドボール（9）………………………………13
フリースロー：集客作戦、効果あった …………早川文司　14
ハンドボールの本紹介
　「It is possible:日本ハンドボールが輝く日」 ……………16
田場裕也のフランス・レポート
　ハンドボール　フランス代表の強さ① ……………………18
2004/2005日本ハンドボールリーグ開幕 ……………………20
第29回日本ハンドボールリーグ レギュラーシーズン日程表…21
日本代表選手（U-23、19、16）名簿（候補） ………………22
協会だより ……………………………………………………24
10万人会会員／9月の行事予定／目次 ……………………28

（登録チームの購読料は登録料に含む）

HANDBALL

MIKASA®
http://www.mikasasports.co.jp

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール





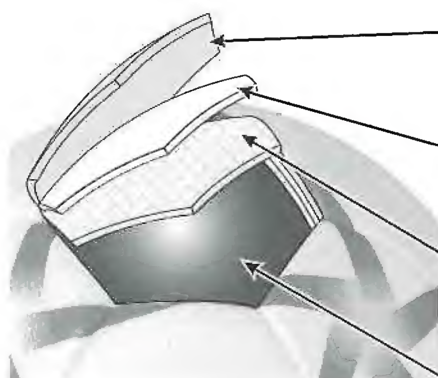
HP300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)
カラー：イエロー

HP200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校
カラー：イエロー

数々のテクノロジーがプレイをサポートします



株式会社 ミカサ

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四五三号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十六年八月二十六日印刷 平成十六年九月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一三〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円